



多治見砂防国道事務所 80周年記念誌



浦山第2砂防堰堤



中山道馬籠宿



国土交通省 中部地方整備局
多治見砂防国道事務所



荒川豊蔵資料館 旧荒川豊蔵邸 (可児市)



御嶽宿 (御嵩町)



永保寺 (多治見市)



マルホンすりばち館 (土岐市)



瑞浪市化石博物館 (瑞浪市)



1…発刊にあたり

2…歴代事務所長

3…発刊によせて

7…東美濃・木曾地域 10 市町村の概要

砂防事業のあゆみ

9…庄内川水系の概要

10…庄内川砂防年表

11…主な災害の記録 (庄内川水系)

13…主な砂防施設 (庄内川水系)

15…木曾川水系の概要

16…木曾川砂防年表

17…主な災害の記録 (木曾川水系)

19…主な砂防施設 (木曾川水系)

道路事業のあゆみ

21…道路事業のあゆみ

23…主な災害 (平成 23 年 台風 15 号災害)

24…道路の老朽化対策 ~メンテナンス元年~

25…国道 19 号 (多治見市~瑞浪市)

27…国道 19 号 (恵那市~中津川市)

29…国道 21 号

32…東海環状自動車道 (国道 475 号)

33…交通安全事業

34…日常の道路管理

35…維持修繕事業

災害支援

37…近年発生した主な災害

38…TEC-FORCE・リエゾン (多治見砂防国道事務所からの派遣)

39…梨子沢土石流

40…御嶽山噴火災害

地域との連携

41…連携事業年表

42…主な事業

47…事務所沿革



国土交通省 中部地方整備局
多治見砂防国道事務所長

綱川 浩章

ご挨拶

東美濃及び木曽地域は、日本の広域交通にとって重要な地域であり、古くは東山道、江戸期以降現在にかけては中山道、国道 19 号並びに中央西線、中央自動車道が整備されてきました。江戸期には、美濃焼などの陶磁器や木曾ヒノキに代表される木材などが、陸運のみならず、木曾川の流れを巧みに利用した水運により名古屋や桑名などに運ばれた後に、全国へと供給されました。歴史的にみても、大量かつ円滑で安価な輸送手段に対する地域の要求水準は高いものであったと考えられます。

一方で、両地域ともに下流域も含め、過去から土砂災害に悩まされてきました。東美濃地域は脆弱な地質に加え、陶土採掘や薪炭利用の結果として禿しや地が広く分布していたこと、木曽地域はその急峻な地形と脆弱な地質が分布していることが大きな要因といえます。

このような中、多治見砂防国道事務所の前身にあたる土岐川砂防工場と中津川砂防工場が昭和 12 年に設置され、それぞれ庄内川水系、木曾川水系において砂防事業に着手することとなりました。その後の追加編入により、昭和 32 年までには庄内川水系が、平成元年までには木曾川水系が、現在の直轄砂防区域と同じ範囲になりました。

道路事業については、昭和 31 年から国道 19 号の改築工事、昭和 33 年からは国道 21 号の改築工事に着手し、その後、平成元年に事業化された国道 475 号（東海環状自動車道）の整備を進めてまいりました。また、平成の大合併により長野県旧山口村が岐阜県中津川市に合併されたことにより飯田国道事務所から約 9km 区間の管理を引き継ぎました。

これらの事業により 450 基を超える砂防堰堤などの砂防設備、東海環状自動車道、管理延長 90.6km に及ぶ国道 19 号と国道 21 号などの道路が整備され、施設本来の機能がもたらす効果、いわゆる「ストック効果」を発揮し、地域の安全・安心や生活の質の向上、産業の発展等を支えてまいりました。

一方で近年全国的に大規模な災害が頻発しています。管内においても、平成 23 年の豪雨に伴う国道 21 号における災害、平成 26 年の豪雨による梨子沢における土砂災害、同年の御嶽山の噴火災害などが発生しています。頻発する大規模災害を踏まえ、国土交通省において TEC-FORCE（緊急災害対策支援隊）が平成 20 年度に創設され、当事務所でも現在 32 名の職員が隊員に任命されており、管内管外を問わず大規模災害発生時には各地で技術的な支援等を行うことができる体制を組んでいます。

平成 21 年度には事務所庁舎を多治見市小田町に新築し、同市坂上町から移転しましたが、これまでと同様に地域との結びつきを重視し、開放講座「水と街道」に代表される広報活動等にも積極的に取り組んでまいります。2027 年にはリニア中央新幹線の開業が予定されるなか、東美濃及び木曽地域では、産業、観光など様々な面から今後の発展に対して期待が高まっています。地域のニーズを把握し、期待に少しでも応えられるよう、これからも社会資本整備の推進等に努めてまいりますので、今後とも関係各位の御理解御支援をお願いいたします。

平成 29 年 12 月

- | | | | | |
|--|---|---|--|---|
| 
初代 (昭和12~14年)
内務省名古屋土木出張所
土岐川砂防工場長
荒井 荒三郎 | 
第2代 (昭和14~18年)
土岐川砂防工場長
第6代 (昭和23~25年)
所長 伊吹 正紀 | 
第2代 (昭和14~18年)
中津川砂防工場長
第4代 (昭和21~21年)
中津川砂防工場長
井手 房太郎 | 
第3代 (昭和19~20年)
中津川砂防工場長
安藤 増太郎 | 
第3代 (昭和19~20年)
土岐川砂防工場長
宮田 俊雄 |
| 
第4代 (昭和21~21年)
土岐川砂防工場長
第5代 (昭和21~23年)
所長 庄司 陸太郎 | 
第7代
(昭和25.10.15~26.9.30)
所長 鹿島 邦夫 | 
第8代
(昭和26.10.1~27.11.15)
所長 坂下 芳男 | 
第9代
(昭和27.11.16~28.2.28)
所長 深井 浩三 | 
第10代
(昭和28.3.1~30.8.31)
所長 松川 恒夫 |
| 
第11代
(昭和30.9.1~33.5.31)
所長 毛利 三郎 | 
第12代
(昭和33.6.1~36.12.31)
所長 松井 静夫 | 
第13代
(昭和37.1.1~41.6.30)
所長 中井 久男 | 
第14代
(昭和41.7.1~43.10.31)
所長 近森 藤夫 | 
第15代
(昭和43.11.1~47.4.30)
所長 松山 完 |
| 
第16代
(昭和47.5.1~50.8.31)
所長 今西 欽哉 | 
第17代
(昭和50.9.1~55.3.31)
所長 成田 久夫 | 
第18代
(昭和55.4.1~57.9.30)
所長 松下 忠洋 | 
第19代
(昭和57.10.1~61.3.31)
所長 中矢 弘明 | 
第20代
(昭和61.4.1~63.6.30)
所長 池谷 浩 |
| 
第21代
(昭和63.7.1~平成4.3.31)
所長 近藤 浩一 | 
第22代
(平成4.4.1~7.3.31)
所長 中野 泰雄 | 
第23代
(平成7.4.1~10.5.8)
所長 堀内 成郎 | 
第24代
(平成10.5.9~14.3.31)
所長 原 義文 | 
第25代
(平成14.4.1~18.3.31)
所長 後藤 宏二 |
| 
第26代
(平成18.4.1~21.3.31)
所長 岡本 敦 | 
第27代
(平成21.4.1~24.3.31)
所長 今井 一之 | 
第28代
(平成24.4.1~26.3.31)
所長 伊藤 仁志 | 
第29代
(平成26.4.1~28.6.30)
所長 草野 慎一 | 
第30代
(平成28.7.1~現在)
所長 綱川 浩章 |



古川 雅典
多治見市長

このたび、国土交通省多治見砂防国道事務所が開設 80 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴事務所におかれましては、圏域内の大動脈であり産業・生活基盤の根幹を成している国道 19 号の交通渋滞の緩和、交通事故の減少、災害時における道路網確保及び道路環境の改善といった喫緊の重要課題の解決に向け、大変なご尽力を賜っております。

また、近年突発的な集中豪雨が全国各地で頻繁に見られるようになり、土砂災害の危険性が以前にも増して高まっている中、計画的に様々な砂防事業を推進いただくとともに、地域の学校等とも連携して防災機能の高い豊かな森づくりを目指すグリーンベルト整備事業にも取り組んでいただいております。改めてお礼を申し上げますとともに、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴事務所の更なるご発展と関係者各位のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



加藤 靖也
土岐市長

多治見砂防国道事務所が開設 80 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。当市は、かつて窯業で使用する薪材の乱伐等による林地の荒廃が著しく、度重なる災害に見舞われてまいりましたが、その後砂防施設の建設や減災対策といったハード・ソフト対策を効果的かつ効率的に推進いただいたことにより、近年多発する集中豪雨にあっても甚大な災禍を被ることがなくなりました。

また、東海環状自動車道、国道 19 号・21 号は、交流人口の増加、企業誘致による雇用拡大など地域の活性化に大きく寄与しています。そしてこれらの道路の災害時における道路網の確保及び渋滞対策といった課題の解決に向け、大変ご尽力いただいております。

最後になりましたが、貴事務所におかれましては、永きにわたりこの地域の社会基盤の整備に努めていただきましたこと、心より感謝申し上げますとともに、ますますのご発展を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



水野 光二
瑞浪市長

このたび、国土交通省多治見砂防国道事務所が開設 80 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴事務所におかれましては、管内の砂防事業及び地域の発展に欠かすことのできない直轄国道の維持・改良に、日々努められていることに対し、敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

特に、平成 27 年度には、「国道 19 号瑞浪恵那道路」の一部を事業化していただき、着実に事業推進していただいていることに感謝いたします。この道路が完成することにより、長年悩まされ続けた朝の通勤時の渋滞解消はもとより、地域経済の活性化や、大規模災害発生時の緊急避難路や救急搬送路として非常に重要な役割を担うことになり、東濃地域の生活環境が飛躍的に改善されることを期待しています。

今後も貴事務所には、地域住民が安心・安全で暮らせるための砂防事業の促進、既存道路の維持管理や、防災事業、また、増え続ける通過車両の渋滞緩和と事故防止及び、他市との文化的・経済的交流に必要な幹線道路の改良事業の推進に、より一層のご尽力をいただくとともに、今後の瑞浪市道路行政の進展にご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、開設 80 周年を契機として多治見砂防国道事務所の更なるご発展と、関係者各位のご健勝を祈念申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。



小坂 喬峰
恵那市長

多治見砂防国道事務所開設 80 周年を迎え、心からお祝い申し上げます。今日まで、砂防事業、道路事業、特に国道 19 号の恵中拡幅事業を通じ、地域住民が安心して生活できる基盤整備を推進していただき感謝申し上げます。

当市では、「はたらく」「たべる」「くらす」に重点をおいた政策を推進する中で、活力ある地域の形成を実現するために、道路は重要な社会資本と考えています。

平成 27 年度に一部事業化された「国道 19 号瑞浪恵那道路」が、今後予定されているリニア中央新幹線の開通も見据え、交流人口の増加、企業誘致による雇用拡大などの広域的な波及効果とともに地域の活性化に大きく寄与するものと期待しております。

今後も地域の実情をご理解いただき、地域性を活かした道路整備を促進され、地域の活性化にご尽力いただくことをお願いするとともに、貴事務所の益々のご発展を祈念申し上げお祝いのご挨拶とさせていただきます。



青山 節児
中津川市長

多治見砂防国道事務所が創立 80 周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、日頃より地域の安全安心のため砂防・国道事業を推進していただいておりますことに敬意を表するものであります。昭和 7 年 8 月に当市で発生しました四ツ目川災害は、死傷者 26 名、被害家屋 500 戸以上という甚大な被害をもたらした土砂災害でありました。貴事務所におかれましては、これを契機に昭和 12 年から直轄砂防事業に着手され、四ツ目川遊砂工をはじめ、多くの砂防施設の整備、さらには東西交通の大動脈である国道 19 号の 4 車線化など、今日までさまざまな施設整備に取り組んでいただきましたことに心より感謝申し上げます。

近年、異常とも思える局地的な集中豪雨が全国各地で発生しています。地域の安全安心の確保は、2027 年開業のリニア中央新幹線の開業に向け、新たなまちづくりに取り組む当市にとって最も重要なことでもあります。今後も引き続き直轄事業の積極的な事業展開をお願いするとともに、貴事務所の益々のご発展を心から祈念いたしまして、創立 80 周年のお祝いの言葉といたします。



富田 成輝
可児市長

多治見砂防国道事務所が、創立 80 周年を迎えられましたことに心よりお祝いを申し上げますとともに、地域の安全、安心のため砂防事業・国道事業を推進していただき感謝申し上げます。

地域の生活を支える大動脈である国道 21 号においては、念願である可児御嵩バイパスの完全四車線化に平成 28 年度から一部着手していただき、交通渋滞解消の兆しが見えてきています。

道路は、人口減少・高齢化の進む昨今のまちづくりにおいて、特に重要となる「コンパクトシティ + ネットワーク」の一翼を担うものであり、地方都市にとって、活力ある経済活動の促進や交流人口の拡大などにつながる、地域活性化の要となるものです。

今後も、地域の振興に資する砂防・道路事業に一層のご尽力をお願い申し上げます。貴事務所の益々のご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



渡邊 公夫
御嵩町長

多治見砂防国道事務所 開設 80 周年を心からお祝い申し上げます。
 貴事務所におかれましては、管内の砂防事業と、直轄国道の維持、改築事業等に日々ご尽力いただいております。特に、当町内の国道 21 号において、地震発生時に陥没被害のおそれのある垂炭鉦廃坑に対する充填工事を継続的に実施いただいております。深く感謝申し上げます。
 また、当町を東西に横断する国道 21 号可児御嵩バイパスは、東海環状自動車道 可児・御嵩インターチェンジと、町内工業団地とのアクセスを飛躍的に向上させ、広域的なストック効果を発揮し、更には災害時の緊急輸送道路でもあることから、当町の発展と住民の安全・安心に大きく寄与しております。今後は、周辺の市町村や観光資源と連携した広域観光圏の整備に向け、交通量の増大が見込まれる中、主要区間の 4 車線化や防災対策など、引き続きご尽力賜りますようお願いいたします。
 最後に、貴事務所の益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



大屋 誠
上松町長

多治見砂防国道事務所が、創立 80 周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。
 昭和 53 年度より直轄砂防事業に着手をいただいてから、約 40 年に渡り砂防事業を継続して実施をいただいております。幾度となく発生をしております土石流を砂防堰堤が捕捉をすることにより、下流域への被害を未然に防ぐ砂防事業の重要な役割、使命は、地域住民の生命と財産を守り、安心・安全な生活を送るうえで不可欠なものとなっております。
 改めて、砂防事業の継続的な事業の推進に感謝申し上げます。
 木曾地域は、国道 19 号線、JR 中央西線が縦貫するなか、急峻な山腹に脆弱な崩壊地をいくつも抱えております。近年の異常気象による災害の発生が危惧されるなかにおきましては、多治見砂防国道事務所の積極的な事業の推進は、地域住民にとってその期待は大きく、安心と安全をもたらす重要な役割を担っていただいております。
 この 80 周年を契機としまして、貴事務所の更なる発展をご祈念申し上げてお祝いの言葉といたします。



貴舟 豊
大桑町長

この度、多治見砂防国道事務所開設 80 周年の節目を迎えられたことに心よりお祝い申し上げますとともに、貴事務所の直轄砂防事業が、地域の安全と発展のために着実にその実績を積み上げていただいていることに敬意と感謝を申し上げます。
 平成 28 年 10 月、貴事務所のご配慮により普段は遠くに眺める中央アルプスを上空から見ることができました。真下に見る山肌は鋭く抉り取られ増々拡大し続ける崩壊地の現状に驚きと危機感を覚えました。しかし、眼下に見る砂防堰堤が、土石流を止め防災・減災に確実に機能していることも確認できました。砂防事業の重要性を認識したところです。
 昭和 53 年に当地域が直轄砂防区域に編入され、木曾南部地域の砂防事業は、地域住民の安心・安全と地域の発展に大きく寄与していることに、あらためて感謝いたします。今後さらに砂防事業の推進を願うところです。
 結びに、貴事務所の増々のご発展と関係各位のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして開所 80 年記念のお祝いのことばとさせていただきます。



向井 裕明
南木曾町長

創立 80 周年、誠におめでとうございます。
 日頃より多治見砂防国道事務所が先頭に立って、広大な木曾谷とそこに住む住民の命と財産を守るために奮励努力して頂いておりますことに、住民を代表して心よりお礼と感謝を申し上げます。
 平成 26 年 7 月に発生した当町梨子沢の災害では、砂防事業の積み重ねにより最小限の被害に留まることとなりました。犠牲者が出たことは痛恨の極みですが、直轄事業により整備された施設が無かったとしたら、一体どれ程に悲劇は広がっていたのでしょうか。復旧を終えた今まさに「命を守る砂防」への思いを住民共々噛みしめているところです。今後とも施設整備を積極的に推進される事は勿論、今回の災害で発揮された応援派遣、機動力といった点にも大いに期待を寄せるものです。
 貴事務所が末永く地域を守る砦として一層発展されんことを願うと共に、ご労苦をお掛けしている関係各位のご健勝ご多幸をお祈りしてお祝いの言葉と致します。

東美濃・木曾地域 10市町村の概要

かにし
可児市 住みごこち一番・可児



Ver.1(2017.12)

人口●98,695人 (H27 国勢調査)
面積●87.57 km²
市の木●クロマツ
市の花●サツキ、バラ

市の概要
可児市は、岐阜県中南部に位置し、北部を木曾川、中央を可児川が流れ、西部には山麓にカタクリ群生地を有する鳩吹山など豊かな自然が身近にあるまちです。また、県内最大規模の可児工業団地をはじめとする多くの工業団地があり、中濃圏域、可茂地域のみならず、名古屋都市圏を支える経済産業拠点としての役割も担っています。

PRポイント
国史跡「美濃金山城跡」をはじめとする多くの城跡で戦国時代に想いを馳せ、荒川豊蔵資料館で美濃桃山陶の聖地に陶酔できます。花フェスタ記念公園や木曾川左岸の遊歩道、可児川下流域自然公園のカタクリやモミジなど、自然・四季を身近に感じられます。芸術拠点の文化創造センターで様々なジャンルの一流芸術文化に触れます。

あけまつまち
上松町 森林浴発祥の地 水と緑が癒す郷



Ver.1(2017.12)

人口●4,670人 (H27 国勢調査) 町の鳥●コマドリ
面積●168.42 km²
町の木●木曾ひのき
町の花●オオヤマレンゲ、ササユリ

町の概要
上松町は、長野県の南西部、木曾郡のほぼ中央に位置する木曾川上流の水源の郷であり、全面積の94%が森林で、「木曾ひのき」を代表する多くの森林資源と森林文化が漂う山間の町です。先人より引き継いだ豊かな自然を大切に、すべての人が夢と希望の持てる、人・森・水が輝く「グリーンユートピアタウン」を目指しています。

PRポイント
上松町を代表する観光地である「赤沢自然休養林」は樹齢300年を超える檜の天然林で、世界的にも貴重な天然檜林は日本三大美林の一つに数えられ「森林浴発祥の地」とされています。また、「森林セラピー基地」にも認定されており、四季の流れに沿って表情を変化させる赤沢の森林は、日々のストレスから解放され心身を癒してくれます。

みたちちよう
御嵩町 日本一、中山道に身を染められる「宿場町」



Ver.1(2017.12)

人口●18,111人 (H27 国勢調査)
面積●56.69 km²
町の木●アカマツ
町の花●キク

町の概要
御嵩町は、岐阜県の東南部に位置し、まちの面積の約6割を森林が占め、希少な動植物が多く生息する緑豊かな里山のまちです。また、かつては中山道の宿場町として栄え、まちの随所に今も歴史の足跡が多く残っています。岐阜県内唯一の環境モデル都市である当町は、行政と住民が一体となって「活力ある環境にやさしいまち」を目指しています。

PRポイント
御嵩宿・名鉄広見線御嵩駅の改札を出ると、そこは願興寺の門前町として栄えた御嵩宿。往時の面影が色濃く残されており、外国人観光客にも人気が高まっています。
伏見宿・木曾川の水運を利用した新村渡から多くの物資が運び出され、賑わいをみせた伏見宿。現在は、古い建造物や史跡などが、往時の名残をとどめています。

おおくわむら
大桑村 笑顔と自然に包まれた美しい村
～未来につなぐ『めぐみの郷』～大桑村



Ver.1(2017.12)

人口●3,825人 (H27 国勢調査)
面積●234.47 km²
村の木●ヒノキ
村の花●ジャクナゲ

村の概要
大桑村は、長野県の南西部に位置し、村の中央部を北東から南西にかけて流れる木曾川に沿って国道19号、JR中央本線が走り、起伏の激しい複雑な地形です。また、総面積の95.7%を森林が占め、集落、耕地は木曾川とその支流の比較的平坦な標高500m～800mの地域に小規模に点在している村です。

PRポイント
大桑村は、澄んだ空気と青い空、満天に煌めく星空、木曾三川36景に選ばれた、エメラルドグリーンの清流が見事な「阿寺深谷」などの自然美を体感することができます。また、旧中山道の須原・野尻宿や重要文化財に指定された神社仏閣など歴史的遺産が多く残っています。

たじみし
多治見市 「視・聴・触・味・嗅」
五感で楽しむまち「たじみ」



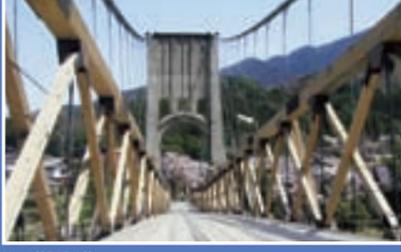
Ver.1(2017.12)

人口●110,441人 (H27 国勢調査)
面積●91.25 km²
市の木●シデコブシ、イチヨウ
市の花●キキョウ、ツツジ

市の概要
多治見市は、岐阜県の南東部、愛知県との県境に位置し、古くから焼き物文化の都として、美濃焼とともに発展してきたまちです。虎渓山永保寺、神言修道院、美濃陶芸など、歴史に裏打ちされた人を育てる文化を礎に、企業誘致、教育・医療環境の充実など、「人が元氣！まちが元氣！多治見」を目標として、まちづくりを進めています。

PRポイント
多治見市を代表する観光地 虎渓山永保寺・鎌倉時代(1313年)に開創され、「観音堂」と「開山堂」は国宝に指定され、池泉回遊式庭園は国の名勝に指定されています。毎年11月下旬には樹齢約700年を数える大銀杏をはじめとする紅葉が、市民や観光客を魅了しています。

なぎそまち
南木曾町 住んでよかった、暮らしてよかった
住むなら南木曾町



Ver.1(2017.12)

人口●4,313人 (H27 国勢調査)
面積●215.93 km²
町の木●ヒノキ
町の花●ミツバツツジ

町の概要
南木曾町は長野県の南西、木曾谷の南端に位置しており中山道の宿場町、交通の要衝として発展してきました。また、町の面積の94%が緑に囲まれており森林資源に富み、蘭ひのき笠、南木曾ぐるくる細工などの加工産業、木材産業、観光産業が主要産業となっています。現在は、豊かな自然を守りながら赤ちゃんからお年寄りまで誰もが住みやすい町を目指して、住環境の整備や安全安心を確保する防災対策を進めています。

PRポイント
中山道の宿場町として今でも伝統的な町並みが残されている妻籠宿は全国でも有名な観光地です。木曾川を横断する桃介橋は国の近代化の重要文化財に指定されています。他にも南木曾岳、田立の滝、柿其深谷はハイキングコースとして人気で、海外からの観光客も多く訪れます。

ときし
土岐市 1300年以上の美濃焼の歴史を持つ
交流都市 土岐市



Ver.1(2017.12)

人口●57,827人 (H27 国勢調査)
面積●116.20 km²
市の木●ヒトツバタゴ
市の花●キキョウ

市の概要
土岐市は1300年以上の伝統を持つ全国有数の美濃焼の産地で、市内には緑豊かな丘陵が広がり自然に恵まれたまちです。また、中央自動車道と東海環状自動車道の高速度交通網が整備され広域交通の結節点となっており、企業や大型商業施設の進出で各地からの交流人口が増加しています。

PRポイント
市内各所に美濃焼の観光施設があり、また春と秋に祭りも開催され、作陶体験や買い物等を楽しめます。秋には紅葉も素晴らしく、「曾木公園」等ではライトアップも行われ幻想的な世界が広がります。

なかつがわし
中津川市 かがやく人々 やすらげる自然
活気あふれる 中津川



Ver.1(2017.12)

人口●78,883人 (H27 国勢調査)
面積●676.45 km²
市の木●コウヤマキ
市の花●サラサドウダン

市の概要
中津川市は、岐阜県の東南部に位置し、東は木曾山脈、南は三河高原に囲まれ、中央を木曾川が流れる自然豊かなまちです。2027年にはリニア中央新幹線の岐阜県駅と中部総合車両基地ができます。リニアを活かすまちづくりを進め「住み続けたい、住んでみたいと思うまち」を目指しています。

PRポイント
中津川市を代表する観光地 中山道三宿(馬籠宿、落合宿、中津川宿)(仮称)神坂スマートインターチェンジが整備されることにより、より身近になります。文学の世界から飛び出した街並みや風情を満喫してみませんか。

みずなみし
瑞浪市 幸せ実感都市 みずなみ
～共に暮らし共に育ち共に創る～



Ver.1(2017.12)

人口●38,730人 (H27 国勢調査)
面積●174.86 km²
市の木●マツ
市の花●キキョウ

市の概要
瑞浪市は、岐阜県の南東部に位置し、室町時代の創業といわれる美濃焼を中心に発展してきた商工業都市です。みどり豊かな自然にあふれた環境で、太古のロマン漂う「化石のまち」としても全国的に知られています。歴史的な財産を生かしつつ、最先端の科学技術を集積する学園都市としての整備を進め、世界と日本、過去と未来の交流拠点を目指します。

PRポイント
瑞浪市化石博物館には約3000点の化石が展示されており、化石を掘る体験もできます。産業技術により、「美濃焼犬火」、「豊稔の壺」、「大皿「瑞祥」」が作られており、ギネスブックで世界一と認定されています。

えなし
恵那市 人・地域・自然が輝く交流都市
～誇り・愛着を持ち住み続けるまち～



Ver.1(2017.12)

人口●51,073人 (H27 国勢調査)
面積●504.24 km²
市の木●ハナノキ
市の花●ささゆり

市の概要
恵那市は岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した山紫水明の豊かな自然に恵まれたまちであり、四季折々の姿を楽しむことができます。また、木曾川をせき止めて造られた大井ダムと恵那峡周辺は、県立自然公園に指定されており、その他、阿木川ダムや小里川ダムなどがあり、ダムが多いまちとして知られています。

PRポイント
歴史的な観光資源としては、中心市街地を横断する中山道大井宿、南部には800年の歴史を持つ女城主の城下町の岩村町、レトロな雰囲気漂う日本大正村のある明智町があり、これらが全長25.1kmの明知鉄道によって結ばれています。

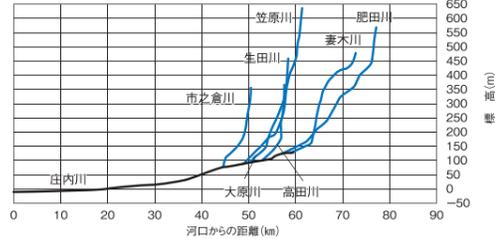


庄内川水系の概要

庄内川(土岐川)は、その源を岐阜県恵那市山岡町の夕立山(標高727m)に発し、幾多の溪流を合せて流下し愛知県に入り、名古屋市の北西部を貫流し伊勢湾に流入する流路延長96km、流域面積1,010km²の一級河川です。なお、庄内川は、岐阜県内では土岐川と呼ばれています。

庄内川(土岐川)直轄砂防流域は、肥田川、妻木川、生田川、笠原川、市之倉川、高田川、大原川の各支川が流れ込む土岐川下流部の2市(多治見市・土岐市)にわたる流域面積149.7km²の流域です。

庄内川流域の河川縦断面図



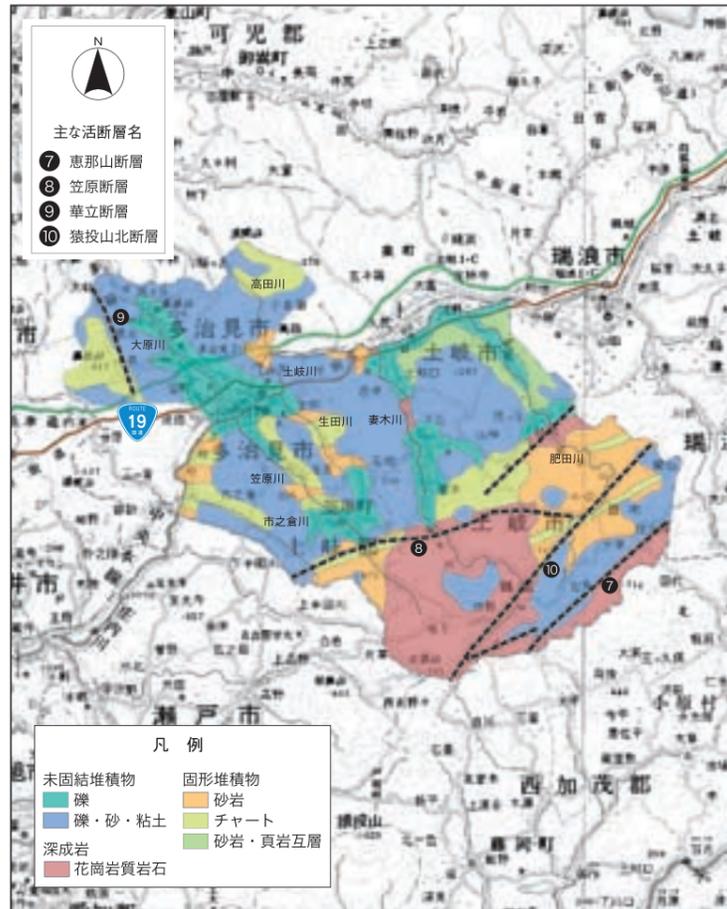
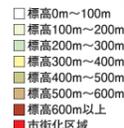
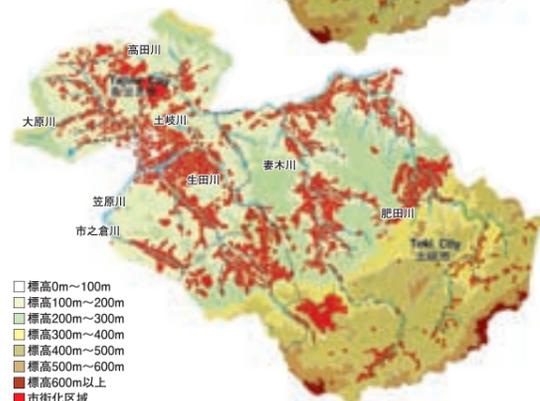
都市化による危険性の増大

人口増加が著しくなった高度成長期からは、山裾近くまで宅地開発による都市化が進み、土砂災害の危険性がより高くなっています。

昭和初期の庄内川流域



平成13年ごろの庄内川流域



出典:土地分類図(岐阜県) 国土庁土地局国土調査課 昭和50年

窯業の発展に伴う山の荒廃

流域には、陶磁器生産に適する瀬戸層群が堆積しており、尾張藩の奨励もあって、江戸時代中頃から、瀬戸・多治見地方は焼き物が盛んになりました。周辺の丘陵では陶土の採掘や薪を得るための山林伐採が盛んに行われてきました。このため、大雨が降れば、荒れた丘陵から土砂が流れ出して庄内川支川等の河床を上昇させ、氾濫が繰り返し発生しました。

庄内川流域の地形・地質の状況

庄内川流域は未固結の粘土層や風化しやすい花崗岩が分布していることに加え、複数の断層が存在し、土石流や崩壊が発生しやすい地形・地質構造となっています。

このため、地震や降雨により崩壊が生じ、庄内川本川まで多量の土砂が流出する可能性が高い状況にあります。



庄内川砂防年表

庄内川流域は、全国でも有数の陶磁器産業地域で、古くから陶磁器生産のための陶土採掘や燃料の薪を得るための山林伐採が盛んに行われてきました。そのため土砂災害が頻発し、江戸時代から「石砂留普請」と呼ばれる治山・治水工事が行われていました。

大正6年から、愛知県と岐阜県で費用分担し庄内川上流(岐阜県)の砂防工事を実施していましたが、その後も災害が続いたため昭和12年に直轄砂防として事業が開始されています。

昭和12年 5月	内務省名古屋土木出張所土岐川砂防工場が設置され、妻木川、笠原川の直轄工事に着手。(中津川砂防工場同時開設)同年6月、笠原川赤坂第1砂防堰堤着工。同年7月、妻木川鳥屋砂防堰堤着工。	昭和54年 1月	宮川流路工着工。
昭和14年 10月	市之倉川の直轄工事に着手。(昭和10年代に72施設完成)	昭和54年 4月	豪雨による地すべり被害。土岐市駄知町有古地内で地すべり発生。被害面積5.15ha、被害戸数12戸。
昭和16年 4月	庄内川(土岐川)の本川筋である残流域の直轄工事に着手。	昭和55年 12月 1月	馬沢流路工着工。須後川流路工着工。
昭和17年 1月	脇之島第1砂防堰堤着工。	昭和57年 12月	寺下第4砂防堰堤着工。
昭和24年 9月	豪雨による被害。土岐川各支川で洪水。多治見市で全半壊13戸、床上・床下浸水397戸等の被害。	昭和58年 9月	台風10号による豪雨被害。多治見市で床上・床下浸水73戸、土岐市で床上・床下浸水102戸、岐阜県下で死者・行方不明者5名。
昭和25年 4月	肥田川の直轄工事に着手。同年4月、宮ヶ洞第1砂防堰堤着工。	昭和58年 9月 12月	富士下第3砂防堰堤着工。浦山第4砂防堰堤着工。
昭和26年 4月	生田川の直轄工事に着手。同年5月、生田川第1砂防堰堤着工。	昭和62年 12月	長総第1砂防堰堤着工。
昭和27年 4月	大原川の直轄工事に着手。(昭和20年代に61施設完成)同年4月、団子第1砂防堰堤着工。同年8月、日本初の等高線壕工法による山腹工実施。(団子山)	昭和63年 12月	洞山第1砂防堰堤着工。
昭和32年 4月	高田川の直轄工事に着手。(昭和30年代に49施設完成)同年4月、裏山第1砂防堰堤着工。砂防工事の直営から一部請負へ転換。	平成元年 9月	豪雨による被害。多治見市で床上浸水14戸、床下浸水19戸、土岐市で全壊家屋1戸、半壊家屋4戸、床上浸水252戸、床下浸水207戸の被害。土岐市駄知町で西山の崩壊により死者1名。
昭和32年 8月	多治見・瀬戸を中心とした豪雨による被害。多治見市で5,000戸、土岐市内で4,000戸を超える家屋が浸水被害。	平成3年 8月	笠原川床固工群着工。
昭和35年 8月	台風による被害。多治見市生田町で土砂崩れにより、死者1名。	平成8年 2月	雲五川床固工群着工。
昭和37年 5月	豪雨による地すべり被害。土岐市下石町山神地内で地すべり発生。被害面積40ha、被害戸数20戸。	平成11年 3月	深山第1砂防堰堤着工。
昭和42年 7月	豪雨による被害。多治見市で倒壊家屋2戸、国道19号が冠水、国道248号でがけ崩れ(市之倉地内)が発生。	平成11年 6月	豪雨による被害。多治見市で土砂崩れ2箇所、笠原川歩行者専用橋に被害。土岐市で、床上浸水27戸、床下浸水61戸、土砂崩れの他、水道橋をはじめ2橋に被害。
昭和43年 7月	脇之島流路工着工。	平成11年 8月	市之倉おりべ(中峰谷第1)砂防堰堤着工。
昭和44年 7月	豪雨による地すべり被害。土岐市土岐津町井戸洞地内で地すべり発生。被害面積7ha、被害戸数20戸。	平成12年 9月	豪雨による被害。多治見市で床上・床下浸水124戸。県道15号で土砂崩れ発生。土岐市で床上・床下浸水5戸の被害。
昭和47年 7月	梅雨前線による豪雨被害。肥田川、小里川上流で大洪水。土岐川沿川各所にも被害。負傷者4名。床上・床下浸水1093戸。	平成14年 9月	生田遊砂工着工。
昭和48年 11月	市之倉川流路工着工。	平成17年 4月	土岐川流域グリーンベルト整備事業登録。
昭和50年 7月	梅雨前線による豪雨被害。多治見市・土岐市で、死者1名。負傷者5名。家屋倒壊12戸。	平成18年 10月	浦山第2砂防堰堤を登録有形文化財に登録。
昭和50年 12月	狭間流路工着工。	平成23年 9月	台風15号による豪雨被害。多治見市・土岐市で床上浸水228戸、床下浸水195戸、死者2名、行方不明者1名。
		平成24年 7月 9月	大沢川災害関連工事着工。源新川砂防堰堤着工。
		平成26年 5月	下阿庄砂防堰堤着工。
		平成27年 9月	鍛冶ヶ入川第5砂防堰堤着工。

主な災害の記録（庄内川水系）

昭和32年8月 豪雨による災害(多治見市・土岐市)

総雨量476.9mm(多治見)
 多数の山腹・溪岸崩壊が発生、死者8名、負傷者15名
 多治見市で5000戸、土岐市で4000戸を超える浸水被害



土砂流出により埋まった家屋



通行止めになった県道(多治見～妻木下石線)

昭和47年7月 梅雨前線豪雨による災害(土岐市)

総雨量241.5mm(妻木) 河川氾濫、山崩れ、崖崩れが多発 負傷者4名、床上・床下浸水1093戸



土砂が堆積した道路



浸水した集落(土岐市)



崩壊土砂が押し寄せた集落

昭和58年9月 台風10号による災害(多治見市・土岐市)

総雨量250mm超(東濃地方)
 多治見市で床上・床下浸水73戸、土岐市で床上・床下浸水102戸
 岐阜県下で死者・行方不明者5名



土岐小学校付近



土岐市内の浸水状況

平成元年9月 台風22号による災害(多治見市・土岐市)

総雨量347.5mm(妻木)
 多治見市で床上浸水14戸、床下浸水19戸、土岐市で全壊家屋1戸、半壊家屋4戸、床上浸水252戸、床下浸水207戸の被害。土岐市駄知町で西山の崩壊により死者1名。



崩壊した斜面(土岐市西山)



土岐市内の浸水状況

平成11年6月 梅雨前線による災害(多治見市・土岐市)

多治見市で土砂崩れ2箇所、笠原川歩行者専用橋に被害
 土岐市で土砂崩れの他、水道橋をはじめ2橋に被害
 土岐市で床上浸水27戸、床下浸水61戸



笠原川支溪流



肥田川支溪流



土岐市内の浸水状況

平成23年9月 台風15号による災害(多治見市・土岐市)

総雨量496mm(多治見)
 床上浸水228戸、床下浸水195戸
 死者2名、行方不明者1名



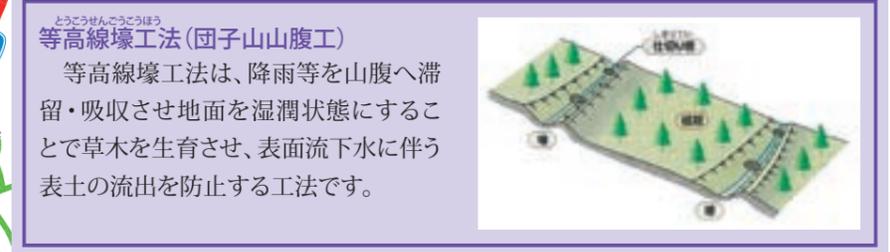
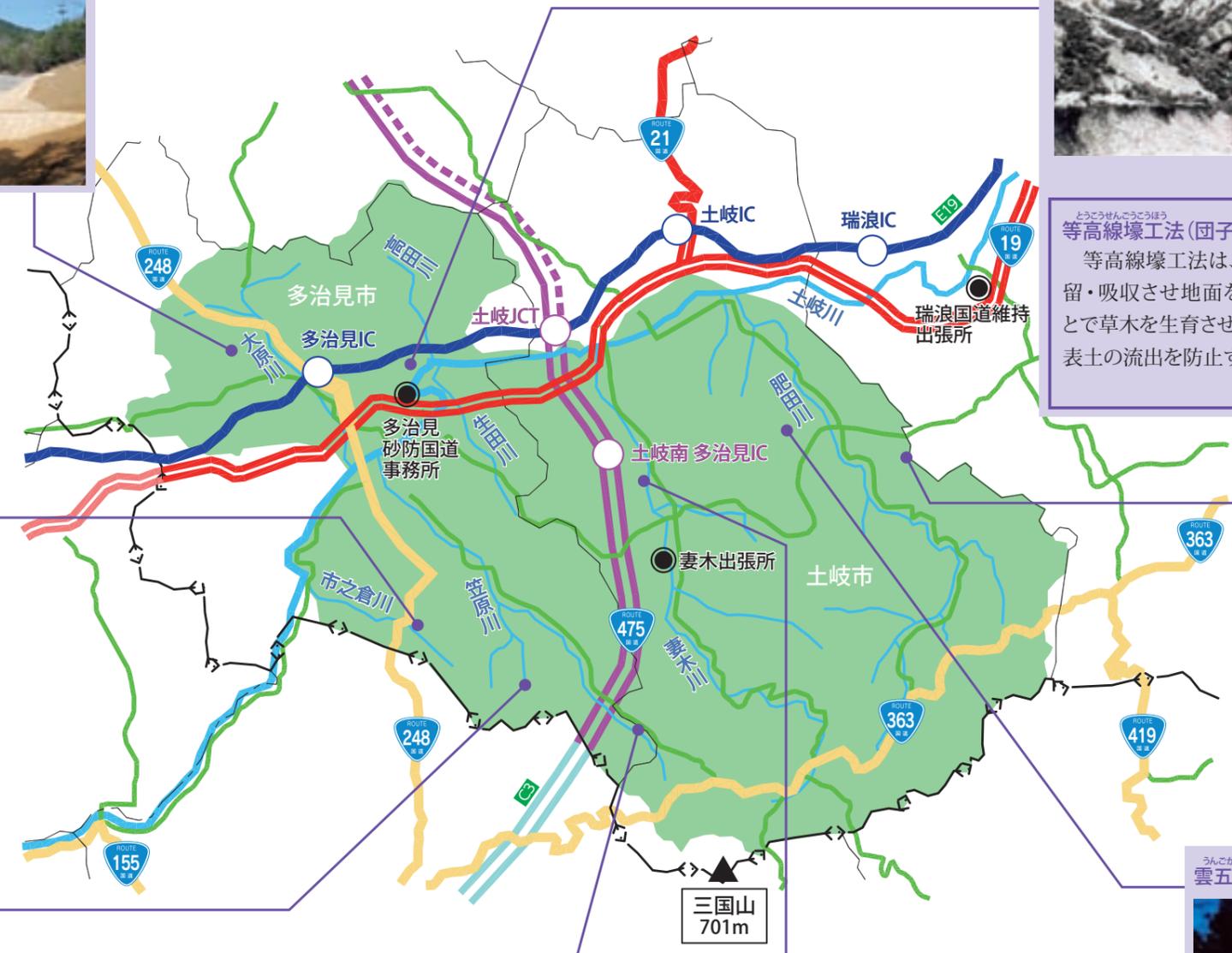
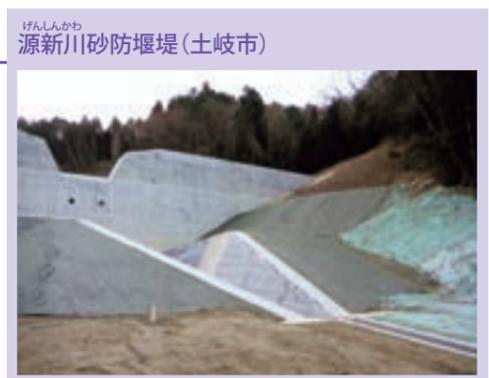
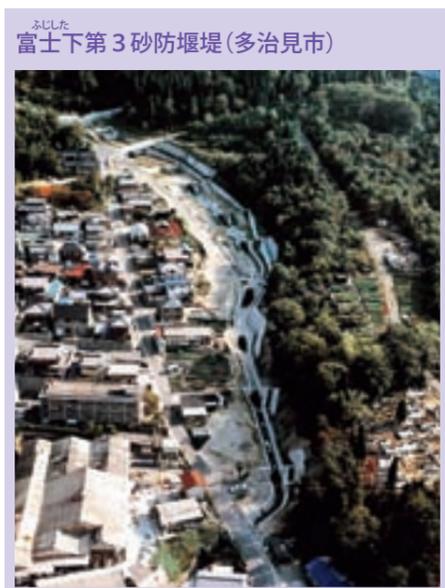
多治見市平和町



道路を塞ぐ土石流(多治見市)



■ 主な砂防施設
(庄内川水系)



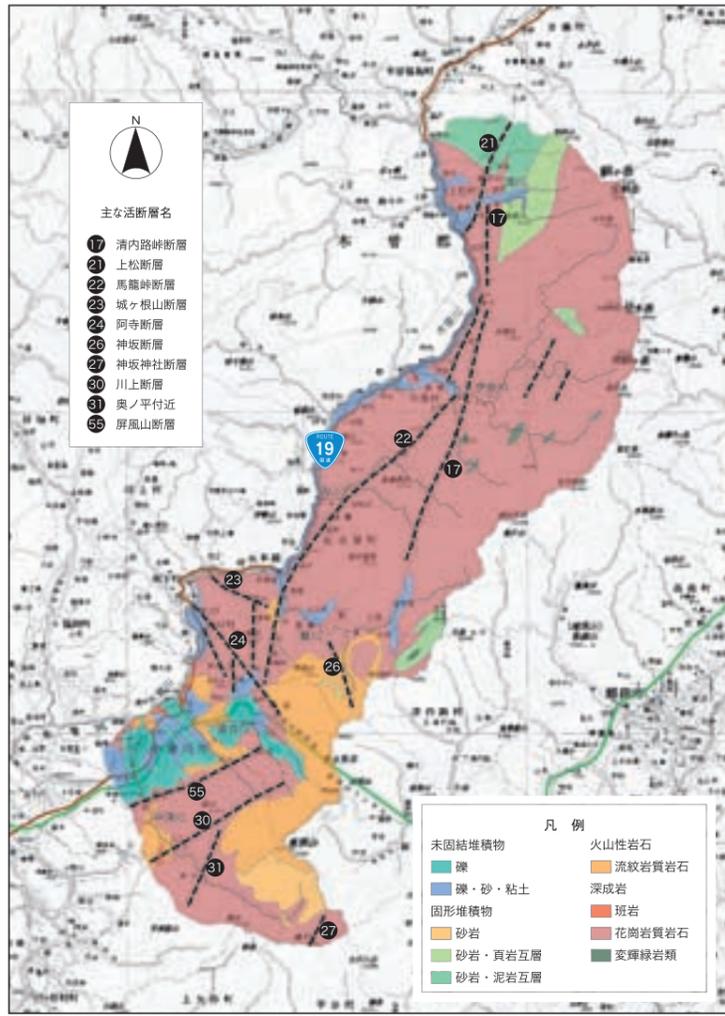
木曽川水系の概要

木曽川は、その源を長野県木曽郡木祖村鉢盛山(標高2,446m)に発し、古来から木材(ヒノキなど木曾五木)の産地として名高い木曾谷を南南西に流下し岐阜県中津川市に入り落合川・中津川・阿木川・飛騨川等の諸川を合わせ、愛知県犬山市で濃尾平野に出て南西に流下します。その後長良川と併流して伊勢湾に注ぐ、流域面積5,275km²、幹川流路延長229kmの一級河川です。

木曽川直轄砂防区域は、長野県の木曾谷から岐阜県中津川市に至る木曾川の左岸川に位置し、南北42km、東西10km超となる流域面積約538km²となります。

もろい地質と急な斜面

東部の駒ヶ岳・空木岳・摺古木山から東南端の恵那山に連なる標高1,500m～3,000m級の木曾山脈(中央アルプス)に囲まれた、急峻な壮年期の大起伏山地となる山岳地帯です。また、地形が急峻であることに加え、地質的には山岳部の中央が新期花崗岩(領家変成岩)及び石英斑岩から成り風化が著しく、複数の断層が発達・併走し崩壊土砂の生産が活発な地域となっています。



出典:土地分類図(長野県) 国土庁土地局国土調査課 昭和49年



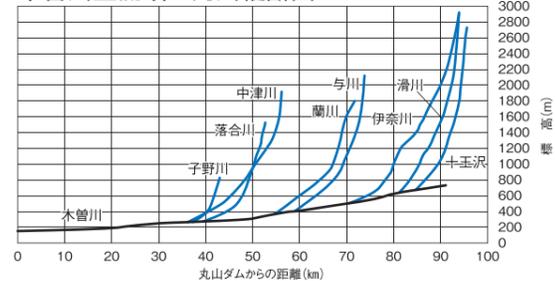
中央アルプスから流れ出る支川溪流 (滑川)

急流河川と河岸段丘が連続してつながる地形

上流部は河岸段丘が連続してつながる地形で、段丘面に人口や資産が集中しています。さらに、3,000m級の山々が連なる中央アルプスから流れこむ支川は急勾配です。

このため、洪水時には支川から大量の水と土砂が一気に本川に流れ込み、ひとたび氾濫が起ると甚大な被害が発生します。

木曽川上流域の河川縦断面図



木曽川砂防年表

木曽川流域は、昭和7年(1932)の四ツ目川災害を契機に昭和12年度(1937)より直轄砂防として事業が始まりました。当初は、四ツ目川を中心に事業が進められ、その後荒廃の著しい中津川、落合川の各支流を重点的に施工され、下流域は着実に事業が進められました。また、中央アルプスを背後にもつ北部流域は、昭和30年代後半から昭和50年代にかけて2～3ヶ年周期で災害が発生し、人命・財産が奪われていたため、昭和50年(1975)7月の集中豪雨による土砂災害を契機に、昭和51年度(1976)より北部流域も直轄砂防として事業が開始されています。

昭和7年8月	集中豪雨による四ツ目川大水害。死者2名、負傷者24名。流出家屋63戸、全半壊245戸、橋の流出18箇所。落合川流域も、橋の流失をはじめ甚大な被害。	昭和58年7月	梅雨前線による豪雨被害。各地で氾濫や土砂崩れ発生。山口村内の国道19号で通行止め。
昭和12年5月	内務省名古屋土木出張所中津川砂防工場で設置され、中津川、四ツ目川、落合川の直轄工事に着手。(土岐川砂防工場同時開設) 同年6月、四ツ目川・山神砂防堰堤着工。	昭和61年7月	豪雨による被害。南木曾町、山口村で土砂崩れ発生。国道19号通行止め。
昭和15年2月	四ツ目川山神砂防堰堤完成。同年3月、落合川日陰第1砂防堰堤完成。同年12月、中津川正ヶ根第1砂防堰堤完成。(昭和10年代に計8施設完成)	昭和61年10月	越百第1砂防堰堤着工。
昭和28年7月	豪雨による被害。南木曾町で死者3名、流出家屋5戸。中津川市で道路交通の途絶、国鉄中央本線の不通により落合村は孤立。	昭和62年12月	松尾第3砂防堰堤着工。
昭和33年7月	集中豪雨による被害。中津川市神坂で池の谷、柳樽川の民家4戸流失、5戸半壊。井戸沢にて堰堤決壊、橋梁流失。	昭和63年12月	明沢川流路工着工。
昭和34年9月	伊勢湾台風による被害。中津川市内で崖崩れ多発。全域で河川氾濫。各地で土石流などによる被害発生。	平成元年4月	木曽川本川筋である残流域の直轄工事に着手。下山沢第2砂防堰堤着工。12月 斧戸第3砂防堰堤着工。
昭和36年6月	梅雨前線による被害。上松町で床下浸水6戸、中津川市川上地区が孤立、道路決壊等各所で被害。	平成2年9月	浦川第2砂防堰堤着工。
昭和39年10月	川上流路工着工。(昭和30年代に計36施設完成。)	平成4年12月	島田床固工群着工。
昭和40年7月	南木曾町で豪雨被害。蘭川、与川、大沢田川等で氾濫。家屋流失・全壊17戸、半壊5戸、床上浸水40戸。	平成5年7月	梅雨前線による豪雨被害。上松町倉本駅線路横が崩壊、床下浸水15戸、国道19号及びJR中央線不通。
昭和41年6月	豪雨による被害。南木曾町で神戸沢をはじめとした溪流が氾濫。三留野地区などで家屋流失、全壊38戸、半壊111戸。	平成5年8月	中津川第8砂防堰堤着工。10月 四ツ目川遊砂工着工。
昭和44年8月	台風による被害。与川、蘭川の氾濫。南木曾町、旧山口村で家屋全壊8戸、半壊1戸、国鉄中央本線、国道19号に被害。	平成8年3月	湯舟沢床固工群着工。
昭和44年8月	四ツ目川流路工着工。	平成11年6月	集中豪雨による被害。滑川、越百川、ウレイ沢等で土石流が発生。床下浸水2戸、JR中央線や国道19号に被害。
昭和50年7月	豪雨による被害。南木曾町妻籠、三留野を中心に土石流発生。家屋全壊1戸、半壊1戸、床下浸水35戸。	平成12年3月	地獄谷第4砂防堰堤着工。
昭和53年4月	木曽川上流部(木曾南部)の直轄工事に着手。蘭川、与川、伊奈川、滑川の4河川が直轄砂防区域に編入される。9月 滑川第1砂防堰堤着工。9月 浦川第1砂防堰堤着工。10月 下山沢第1砂防堰堤着工。	平成12年9月	台風14号と秋雨前線による豪雨被害。東海地区全域で豪雨、土砂崩れが多発。中津川市で床下浸水31戸、南木曾町で床下浸水4戸。
昭和53年9月	本谷第7砂防堰堤着工。	平成16年3月	十王沢第2砂防堰堤着工。10月 橋ヶ谷第2砂防堰堤着工。10月 越百川第3砂防堰堤着工。(施工中)
昭和54年4月	子野川の直轄工事に着手。9月 地蔵堂第1砂防堰堤着工。10月 額付第1砂防堰堤着工。	平成18年10月	二ヶ滝第1砂防堰堤、山神砂防堰堤を登録有形文化財に登録。
		平成22年3月	額付第2砂防堰堤着工。7月 丸山沢第1砂防堰堤着工。
		平成25年8月	豪雨による被害。大桑村下在郷蛇抜沢にて土石流発生。国道19号が通行止め。
		平成26年7月	台風による豪雨被害。南木曾町、木曽川支川の梨子沢にて大規模な土石流が発生。家屋が流出し、死者1名、家屋全壊16戸、半壊・損壊11戸、JR中央線、国道19号も被災。
		平成29年7月	梨子沢災害復旧工完了。

■ 主な災害の記録 (木曾川水系)

昭和7年8月 [四ツ目水害] 集中豪雨による災害(中津川市)

集中豪雨により四ツ目川が氾濫

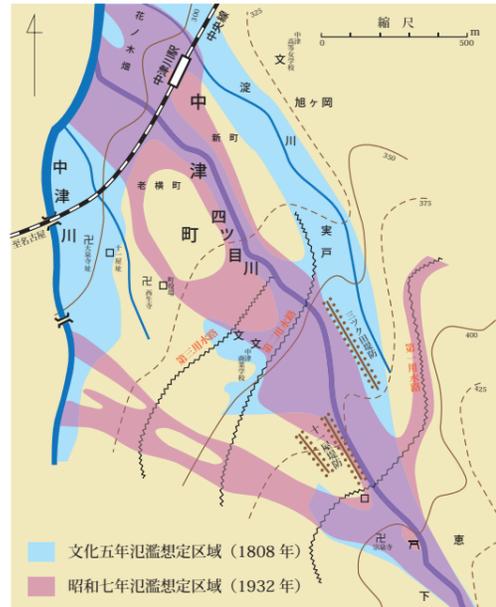
〈中津川市内〉
死者2名、負傷者24名
流出家屋63戸、全半壊住宅245戸、土砂流入家屋212戸
橋の流失18箇所、道路決壊18km



大きな被害を受けた中津川駅



被災箇所に残された巨石



四ツ目川下流の洪水氾濫区域
出典 中津川市「中津町の水害と復興誌」平成9年8月より

昭和36年6月 豪雨による災害(中津川市・木曾郡)

多大の崩壊が発生

〈中津川市〉 川上地区孤立、死者2名、行方不明者3名
〈南木曾町〉 死者1名、住家全壊1戸、半壊1戸、床下浸水3戸、非住家3戸
〈大桑村〉 住家床上浸水4戸、非住家2戸
〈上松町〉 住家床下浸水6戸



川上地区の被災状況



川上地区の被災状況 (出典「50年の歩み」)

昭和40年7月 豪雨による災害(南木曾町)

豪雨により、蘭川、与川、大沢田川等で氾濫。家屋流失・全壊17戸、半壊5戸、床上浸水40戸。



大沢田川 中央本線及び住宅地の被災状況

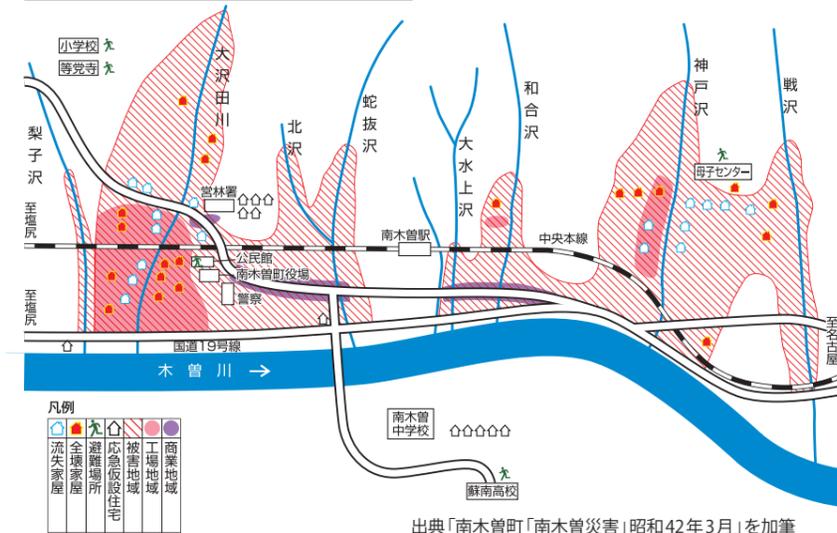


大沢田川の土砂流出状況

昭和41年6月 [南木曾災害] 豪雨による災害(南木曾町)

豪雨により南木曾町を中心に各所で土石流が発生。三留野地区をはじめとして家屋流失・全壊38戸、半壊111戸、橋梁の流失等、大きな被害。

昭和41年6月24日 南木曾町豪雨被害状況略図



土石流に破壊された家屋



南木曾橋の主桁にせまる濁流 (出典:「中部の水害」)

平成12年9月 台風14号と秋雨前線による災害(中津川市・南木曾町)

中津川市の各所で土砂崩れが発生し、床下浸水家屋31戸、道路不通17箇所、南木曾町で床下浸水4戸。



中津川支線 一の沢の土砂流出状況



中津川支川 小滝ヶ沢の土砂流出状況

平成26年7月 台風8号による災害(南木曾町)

梨子沢にて土石流が発生し、三留野地区で死者1名、負傷者3名、家屋全壊16戸、半壊・損壊11戸、橋梁の流失や国道19号通行止め、JR中央本線の不通等大きな被害が出た。

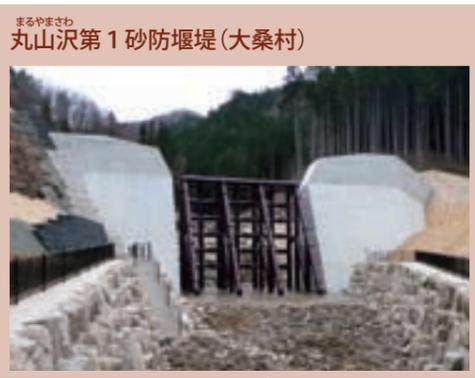
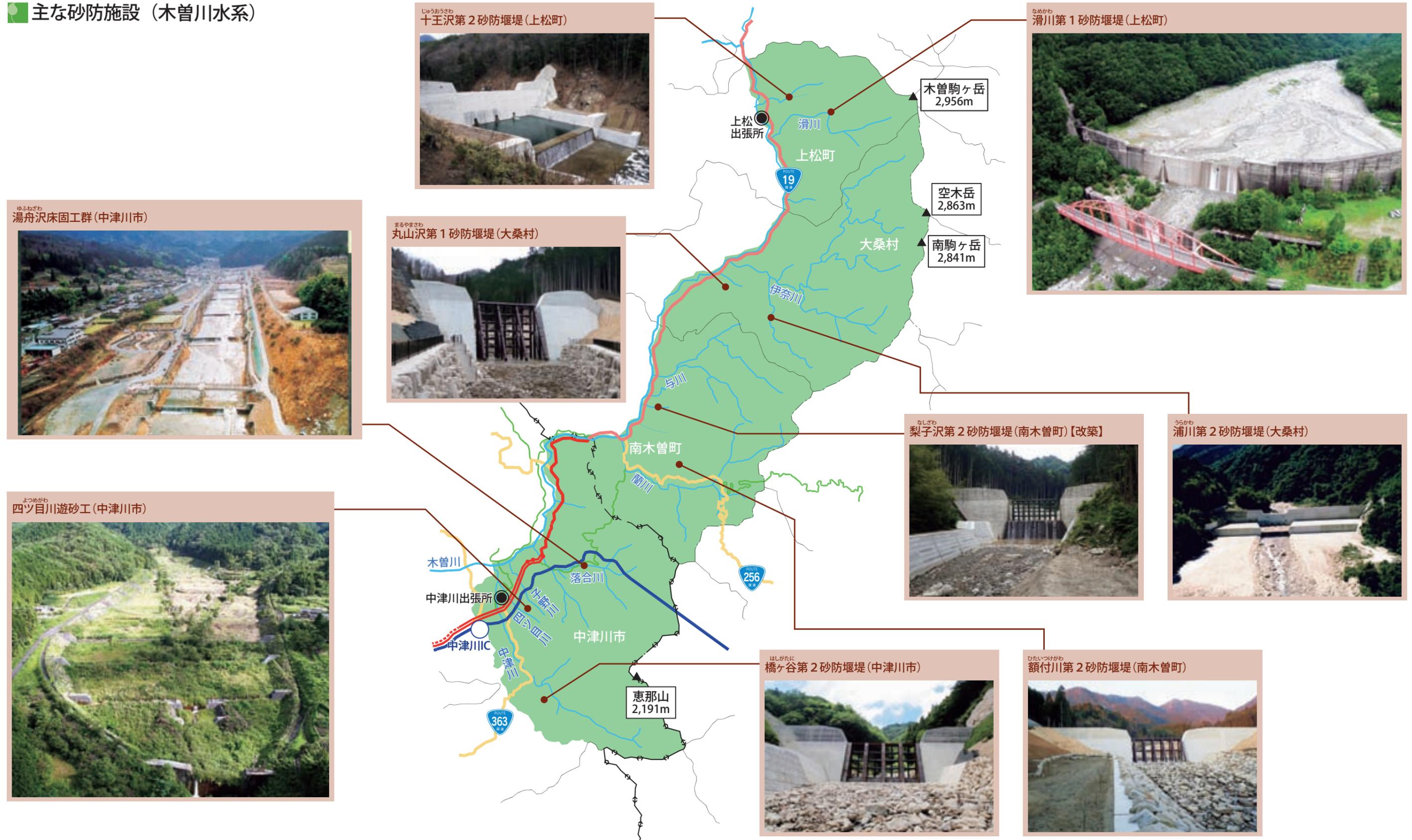


土砂堆積状況 (梨子沢第2砂防堰堤)



災害発生直後の様子

■ 主な砂防施設 (木曾川水系)



■ 主な災害(平成23年 台風15号災害)

平成23年9月20日 台風15号により国道19号多治見市富士見町、国道21号土岐市泉町定林寺～可児郡御嵩町次月で被災しました。国道21号では1名の死者を出す惨事となりました。多治見砂防国道事務所では、ただちに「次月地区災害調査検討委員会」をたちあげ原因究明に乗りだすとともに復旧作業に着手しました。

災害の概要



① 国道19号32.1kp付近(多治見市宮富士見町)



被災状況



復旧状況

② 国道19号32.2kp付近



復旧状況

③ 国道21号8.9kp付近(可児郡御嵩町次月)



被災状況



復旧工事中



復旧状況

④ 国道21号11.1kp付近(可児郡御嵩町次月)



被災状況



復旧工事中



復旧状況

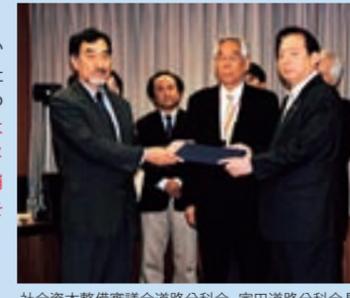
■ 道路の老朽化対策 ～メンテナンス元年～

平成24年12月に発生した中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故により9名の尊い命が犠牲となり、長期に渡って通行止めになりました。このことは、我が国にも道路施設の老朽化時代が本格的に到来したことを告げる出来事となりました。このような背景から、国土交通省においては、平成25年を「メンテナンス元年」と位置づけ、緊急点検等を実施し、第三者被害防止の観点から最低限の安全性を確認するとともに、本格的にメンテナンスサイクルを回すための取組みに着手しています。

静かに危機は進行している

今や、危機のレベルは高進し、危険水域に達している。ある日突然、橋が落ち、犠牲者が発生し、経済社会が大きな打撃を受ける…、そのような事態はいつ起こっても不思議ではないのである。我々は再度、より厳しい言い方で申し上げたい。「今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切らなければ、近い将来、橋梁の崩落など人命や社会システムに関わる致命的な事態を招くであろう」と。

出典:社会資本整備審議会 道路分科会 建議「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」(平成26年4月14日)より抜粋



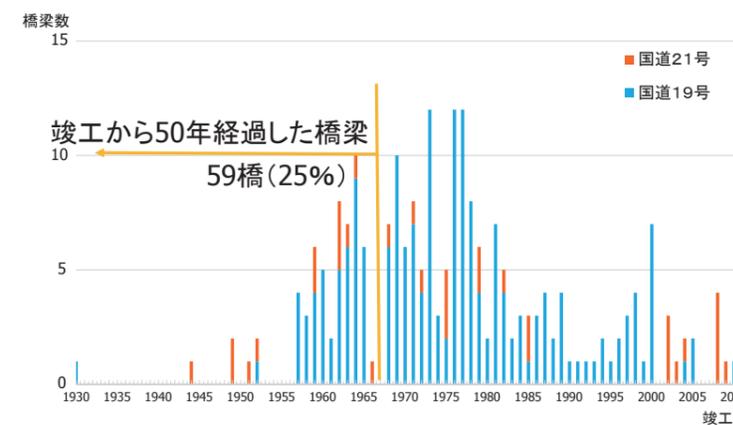
社会資本整備審議会道路分科会、家田道路分科会長(当時)より、太田国交相(当時)に対して提言が手交。



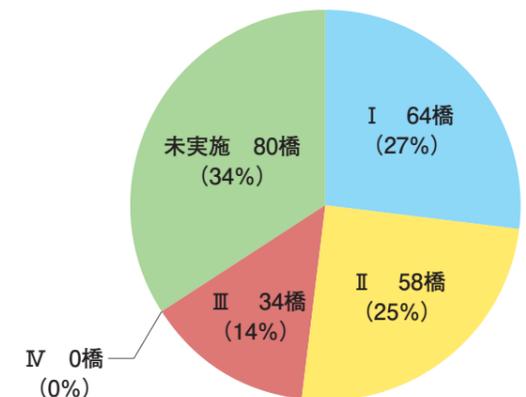
多治見砂防国道事務所の状況(橋梁)

多治見砂防国道事務所が管理する道路施設のうち、橋梁(L=2m以上)は平成28年度末時点で236橋あり、その内の25%は竣工してから50年が経過しています。平成25年度の道路法改正(点検基準の法定化)に基づいた点検と診断を平成26年度より実施しており、平成28年度までに156橋の点検と診断を行いました。診断の判定区分が予防保全段階(Ⅱ)と早期措置段階(Ⅲ)の橋梁については、計画的に補修等の措置を行います。平成30年度までに全ての橋梁について一回目の点検と診断を行い、以後はメンテナンスサイクルを回して適切な維持管理を実施します。

竣工年度別橋梁数



H28年度末時点の診断(I~Ⅳ)状況



補修状況



橋梁点検車による点検

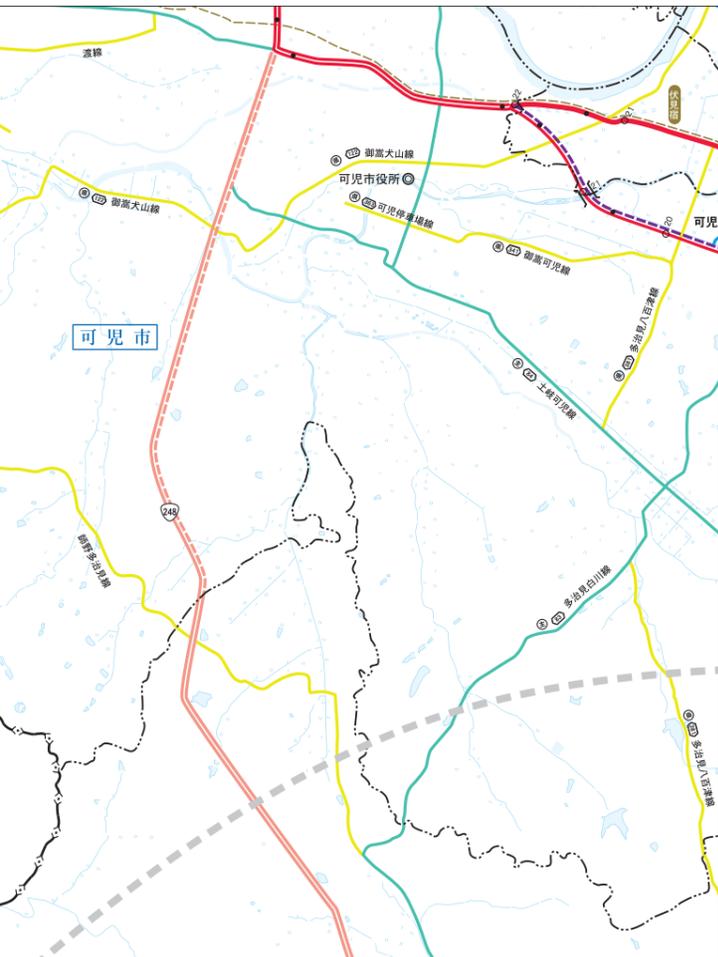
判定区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅲ 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く緊急に措置を講ずべき状態

道路改築事業では、渋滞や事故等の交通課題に対し、安心安全で快適な道路環境を創出するために、道路の新設や拡幅、沿道環境の改善を実施しています。

道路整備によって移動時間の短縮や信頼性の向上等による生産性の向上や、沿道開発・企業進出等が進み、雇用や消費と

いった経済活動を創出するなどのストック効果の発現が期待されます。

国道19号(多治見市～瑞浪市)



みすなみえな 瑞浪恵那道路 岐阜県瑞浪市土岐町～岐阜県恵那市長島町(L=約12.5km)

瑞浪恵那道路は瑞浪市と恵那市を結ぶ延長約12.5kmの区間で、渋滞・事故等の交通課題の解消や、リニア中央新幹線に伴う地域振興に寄与する道路として計画しました。平成27年度に瑞浪市土岐町～恵那市武並町の延長8.2kmが事業着手し、平成29年度に起点部で工事着手しました。

中心杭打ち式(平成27年11月)



着工式(平成29年12月)



ストック効果1 企業立地を促進し雇用の創出に期待

恵那テクノパーク

概要

- 立地企業: 14社
- 従業員数: 約1600人
- 鉄道車両用電機部品企業: 1社(約150人)
- 自動車部品企業: 5社(約1100人)
- その他企業: 8社(約350人)



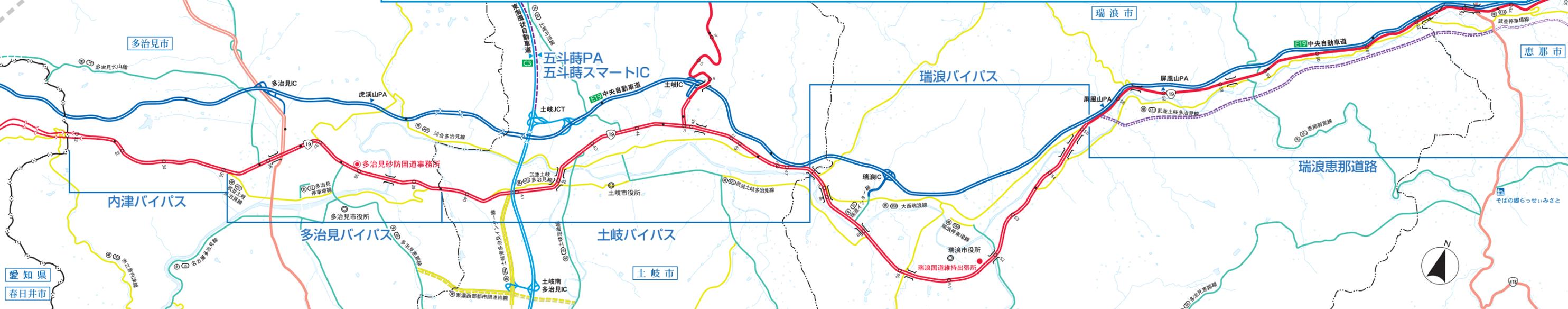
恵那西工業団地の造成を決定!!

恵那西工業団地は敷地約19.5ヘクタール(3区画造成)で平成31年度以降完成予定



ストック効果2 観光・レジャー支援で集客力を高める

- 中山道琵琶峠
- 恵那峡
- リニア岐阜県駅(仮称)
- 中央自動車道
- 瑞浪市
- 土岐IC
- 瑞浪IC
- きなあと瑞浪
- 道の駅「らっせいみさと そばの郷」
- クリスタルパーク恵那スケート場



国道19号(恵那市～中津川市)

恵中拡幅

恵中拡幅(延伸)
岐阜県恵那市大井町雀子ヶ根～中津川市茄子川(L=3.0km)

国道19号恵中拡幅(延伸)は、国道19号の交通渋滞の緩和、交通事故の削減を目的に平成12年度に事業着手しました。
平成19年度に中津川市西諏訪から中津川市茄子川の約1.0kmについて開通し、平成25年10月に全線が開通しました。

ストック効果	移動時間の短縮(恵那市役所⇄中津川市役所) 23分→16分(約7分の短縮) <small>民間プローブデータ(H28.10平日平均)より算出</small>
	渋滞解消による事故件数の減少(H17とH26の比較) 36件→9件(約8割減少) <small>出典:ITARDA事故データ</small>



開通前 (H18.10)

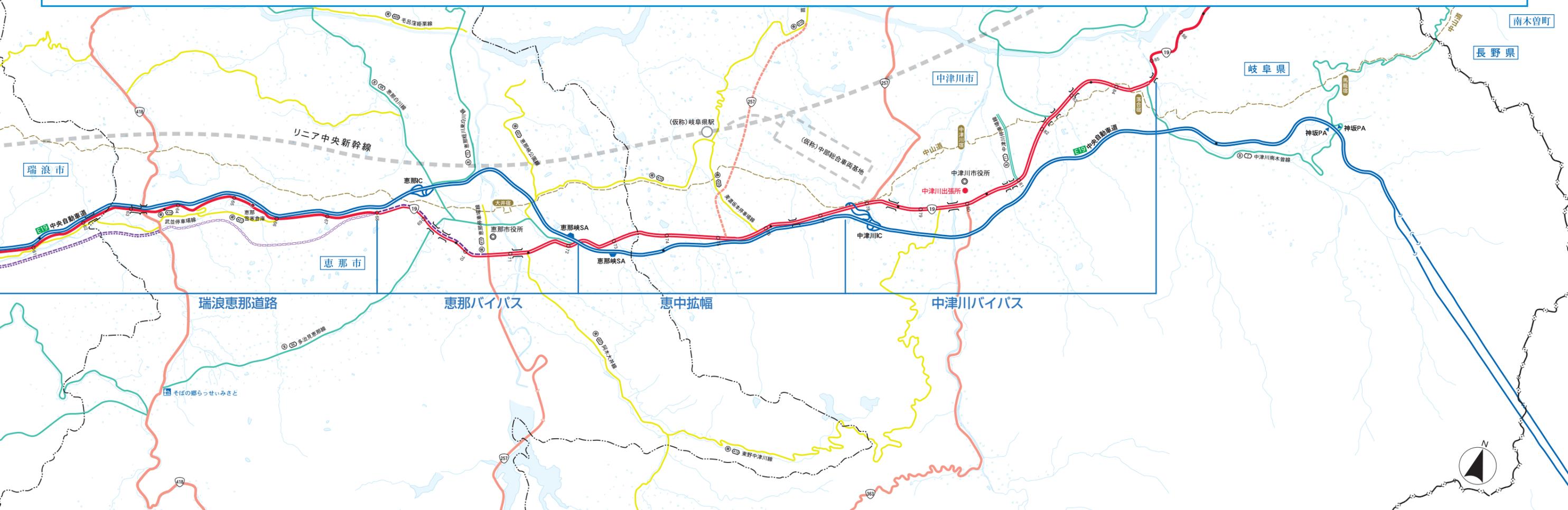


開通後 (H29.2)

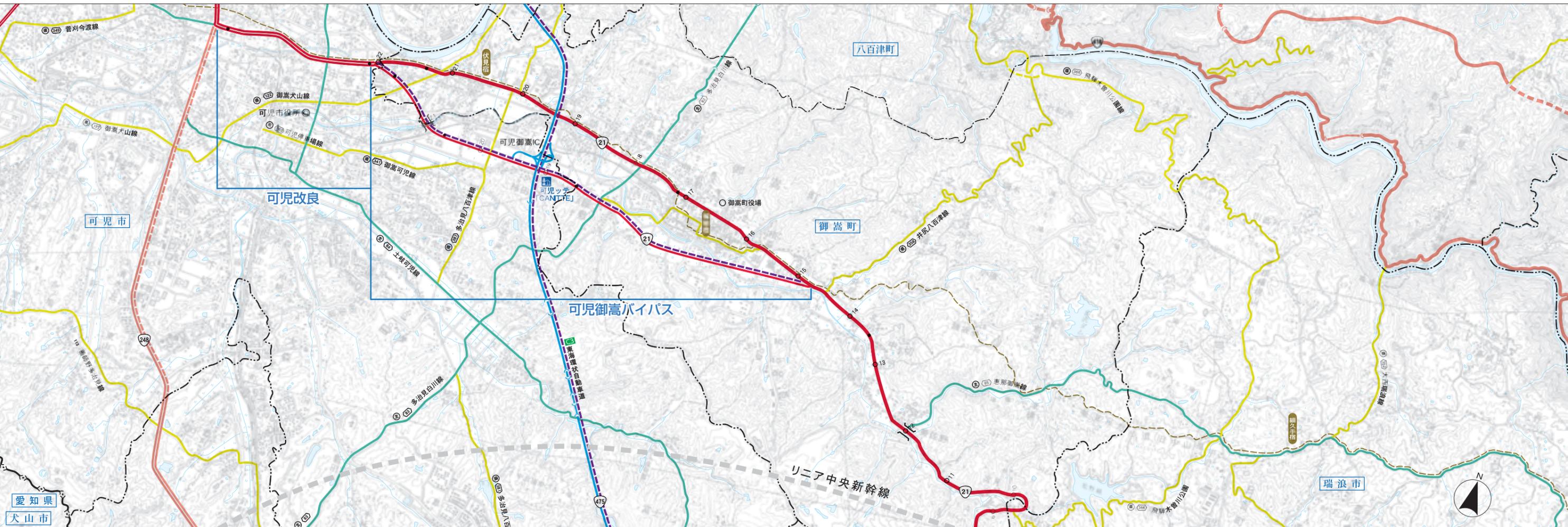
商業施設の立地累積件数(中津川市・恵那市)



恵中拡幅(延伸)周辺の商業施設立地状況



国道21号



かにみたけ 可児御嵩バイパス 可児郡御嵩町井尻～可児市中恵土(L=8.00km)

国道21号可児御嵩バイパスは、岐阜県可児郡御嵩町井尻から可児市中恵土に至る延長8.0kmのバイパスであり、現道21号の交通渋滞の緩和、交通安全の確保とともに、東海環状自動車道可児御嵩ICへのアクセスの確保を目的に計画した道路です。平成22年10月30日に全線2車線暫定開通しました。

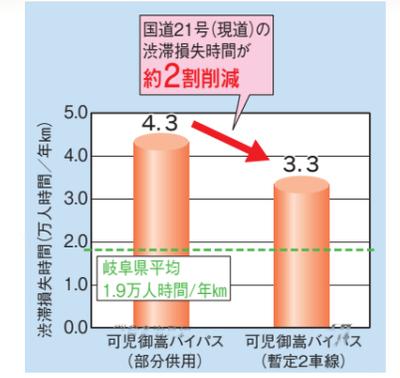


上恵土交差点 (整備前 H17.5)



上恵土交差点 (整備後 H29.2)

国道21号(現道)の渋滞損失時間の削減効果



ストック効果 開通後も沿線に大型商業店舗が立地



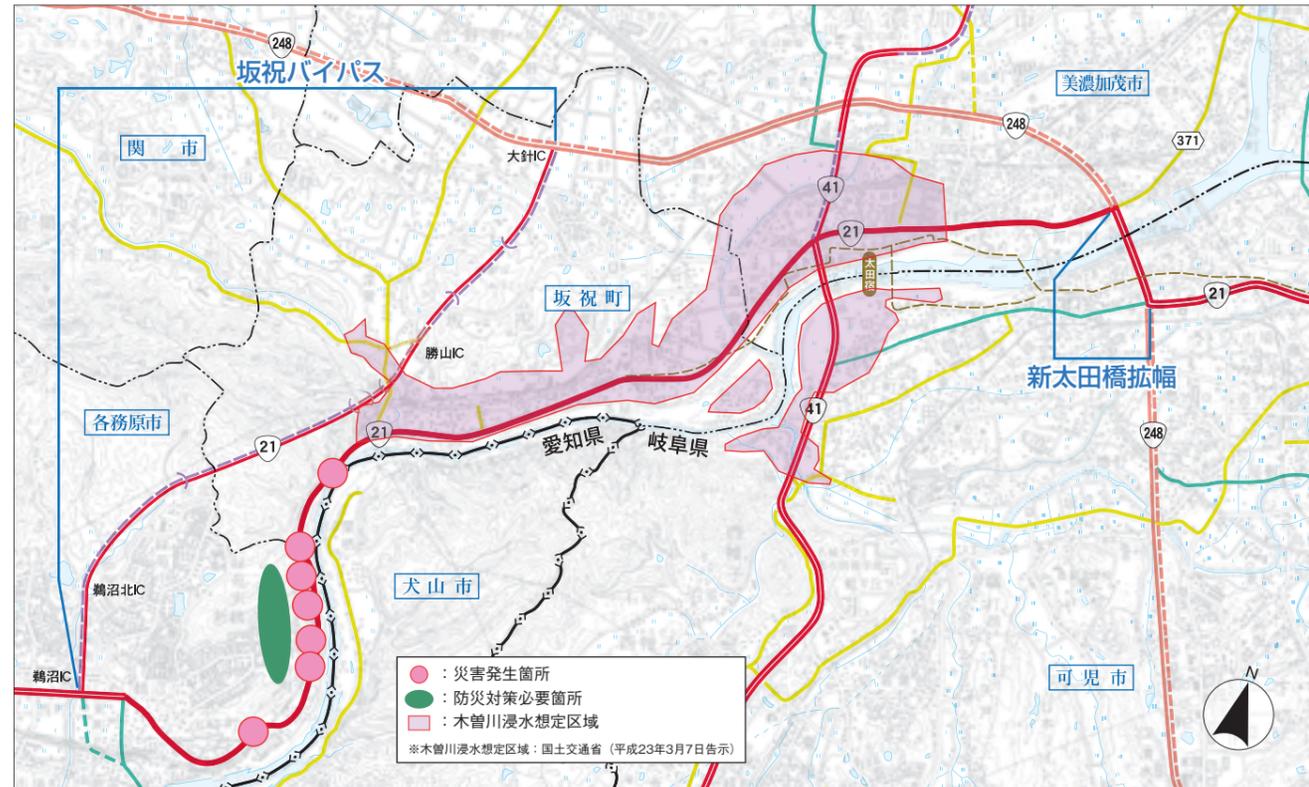
H28.11 撮影

ストック効果 周辺工業団地の用地が完売、御嵩町の製造品出荷額が約2倍に増加



H27.9 撮影

国道21号



さかほぎ 坂祝バイパス 加茂郡坂祝町大針～各務原市鵜沼東町 (L=7.6km)

国道21号の交通渋滞の緩和、防災対策必要箇所や木曾川浸水想定区域の回避（災害時の緊急輸送道路の確保）を目的に、平成2年に事業着手し、平成21年3月に勝山IC～鵜沼IC（延長4.3km）を暫定開通しました。引き続き事業進捗し、大針IC～勝山IC（延長3.3km）を平成28年3月に全線暫定開通しました。



整備中 (H25.12)



整備後 (H28.7)

しんおたばし 新太田橋拡幅 可児市今渡～美濃加茂市御門町 (L=0.96km) (橋長360m)

国道21号新太田橋は、国道21号、県道371号（旧国道41号）、国道248号の主要な道路が集中する交通の要所であり、主要渋滞箇所として位置付けられていました。国道21号新太田橋拡幅は、交通渋滞の緩和、交通安全性の向上を目的に、平成17年度に事業着手し、平成23年6月に開通しました。



整備前 (H15.4)



整備後 (H27.9)

新太田橋通過時間は16分（整備前）から3分（整備後）となり、13分短縮されました。

※整備前：H20.11、整備後：H27.9測定

東海環状自動車道(国道475号)



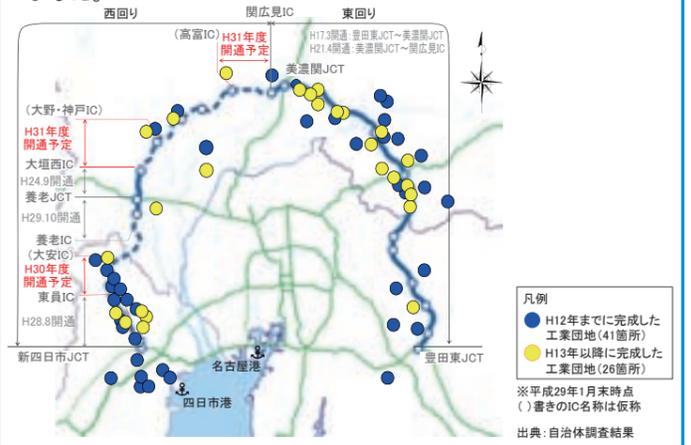
ストック効果

平成17年3月に東海環状道の東回りが全線開通したことで民間投資を喚起し、沿線工業団地で約3.6万人の従業者数が増加しました。さらに、沿線市町の法人税収は約230億円増加し、全国を大きく上回る1.6倍の伸びとなっています。

※総務省「地方財政状況調査」より作成
※沿線市町は、東海環状自動車道が通過する15市8町

東海環状自動車道沿線の工業団地・自動車企業

東回り沿線工業団地に自動車関連企業が67社立地し、東海環状自動車道の開通により、自動車組立工場への輸送効率が向上しました。



ごときまき 五斗時スマートIC

平成25年2月に五斗時スマートICが整備されたことにより、平成28年には近接する工業団地が全区画完売しました。土岐アクアシルヴァ^{※1}の所在する泉地区の製造品出荷額等が約1.6倍に増加^{※2}するなど、地域活性化(雇用)に寄与しています。



※1 土岐アクアシルヴァ 平成19年開業、平成28年3月完売
※2 製造品出荷額(製造業)は平成16年と平成26年の比較

交通安全事業

交通安全事業として、事故対策を重点に、歩道空間の整備、交差点改良、標識設置、視線誘導標設置等、安全で快適な道路空間の整備を行っています。

事故対策

事故危険箇所における交通事故対策

交通事故が集中して発生している箇所を事故危険箇所として指定し、集中的な交通事故対策を実施しています。また、限られた予算を効率的・効果的に執行するため、「成果を上げるマネジメント」を導入し、「事故ゼロプラン」として展開しています。



衝突防止対策前



衝突防止対策後



視距改良前



視距改良後

■多治見砂防国道事務所独自の取組
多治見市マスコットキャラクター「うながっば」を用いた交通事故対策



ビッグデータを活用した生活道路対策

これまでの事故対策は、事故発生箇所に対する「対処療法型対策」でしたが、ビッグデータの活用により速度超過、急ブレーキ発生、抜け道等の潜在的な危険箇所を特定することができ、効果的、効率的な対策の立案、実施が可能となりました。

養正地区 ハンプ設置の有効性検証

○ハンプ設置写真



○ビッグデータを用いた対策前後の平均速度解析

	平均速度
設置前 (H29.2.20~H29.3.3)	20km/h
設置後 (H29.3.6~H29.3.17)	18.3km/h

精華地区 ビッグデータを活用した対策

○ビッグデータによる対策前の走行速度解析



○解析結果を基に実施した対策一例



○a-a区間における対策前後の平均速度解析

	平均速度
対策前 (H27.5~H27.10)	18.4km/h
対策後 (H27.12~H28.5)	17.3km/h

日常の道路管理

道路は毎日たくさんの人々に利用されています。利用者の安全を守り快適に利用していただくため、道路の日常管理はとても重要な仕事です。管理の基本である道路巡回を実施することで道路の安全を確認し、道路に異常があれば応急処理をおこない道路の安全を守っています。

また道路巡回で対応できない異常については応急作業を行う担当者に連絡を入れ対応するとともに、快適に道路を利用できるよう、道路施設の点検等も行っています。



道路巡回による作業



道路損傷部の補修



道路施設の点検



除草作業



特車の取締り



冬期道路の雪氷作業

維持修繕事業

維持修繕事業では、安全で良好な道路であることを目指し、道路路面や橋梁などの各種道路施設に発生した損傷等の補修を実施するとともに、豪雨・豪雪・地震等に対する防災対策や、橋梁の耐震補強などを実施しています。また施設の安全性を確認するため、各種点検を実施しています。

補修・補強工事

長年使用し、通行車両の荷重などにより傷んだ舗装や橋梁、老朽化した照明灯などの道路施設についての補修工事及び橋梁の補強工事を実施しています。



橋梁の橋脚修繕 (19号土岐市泉池ノ上町地内 (土岐大橋))



床版の補強 (19号恵那市長島町地内 (羽白橋))

防災工事

毎年実施している防災点検の結果に基づき、豪雨・豪雪・地震等により災害が発生する恐れがある箇所の対策を行っています。



落石対策 (21号御嵩町次月地内)



法面対策 (19号瑞浪市土岐町地内)

亜炭坑対策

岐阜県可児・御嵩地区では、明治～昭和30年代にかけて、亜炭（低質な石炭）が採掘されており、地下数m～100m程の間に亜炭廃坑の空洞が残っています。可児御嵩バイパス、東海環状自動車道建設時に、道路の陥没を防ぐため、東濃地方で多く算出される陶土の廃棄物「キラ材」を活用して地中に埋める限定充填工法を開発し充填を行いました。現在も、現道21号の下に存在する亜炭廃坑には、各種充填材料による充填を行い、安全性の向上に努めています。



亜炭廃坑内部



充填孔設置



充填作業

点検による長期的対策

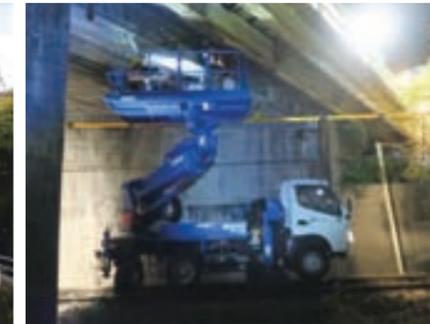
橋梁などの道路施設については、5年に1回の点検を行うことが法律で定められています。また災害危険箇所についても定期的に点検を行うことが定められています。定期点検を行うことで、道路施設の損傷・老朽化、異常現象などをいち早く把握し、対策を行っています。

橋梁点検



橋梁点検車による点検

19号中津川市山口地内 (大又沢橋)



軌陸車による点検

19号土岐市泉町地内 (日の出第1跨線橋)



特殊高所技術による点検

19号瑞浪市土岐町地内 (鶴城跨線橋)

構造物点検



横断歩道橋の点検

19号多治見市池田町地内 (池田横断歩道橋)



道路標識の点検

19号多治見市音羽町地内



照明灯の点検

19号多治見市富士見町地内

防災点検



張りブロックの変状確認

19号多治見市東町地内



クラックの計測

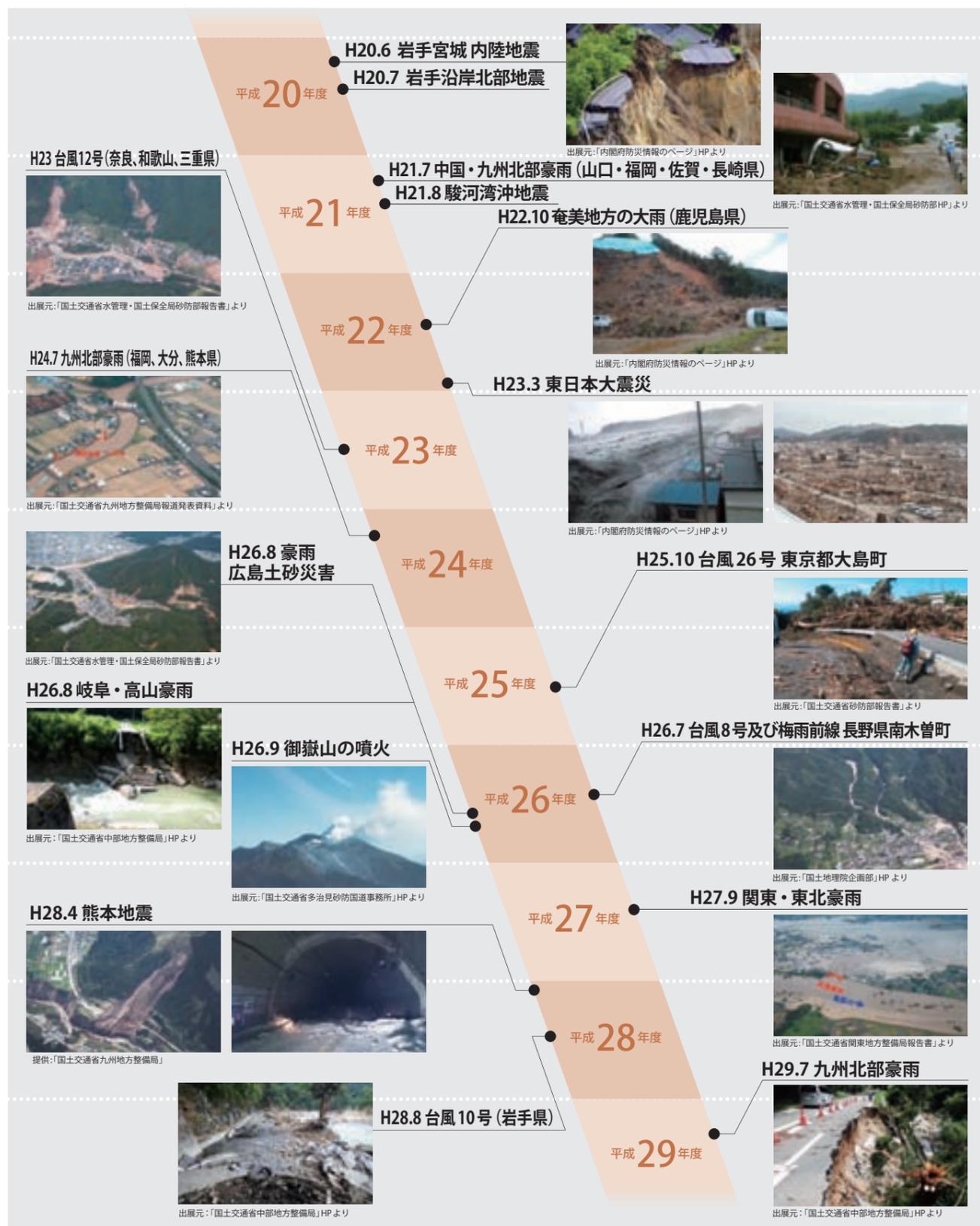
19号中津川市山口地内



有識者 (防災ドクター) 立会での点検

19号中津川市山口地内

近年発生した主な災害



TEC-FORCE・リエゾン (多治見砂防国道事務所からの派遣)

TEC-FORCE

TEC-FORCEは、大規模自然災害に備え、災害が発生した際、迅速に地方公共団体等への支援が行えるよう、平成20年4月に創設されました。平成28年度までに東日本大震災をはじめ、69の災害に対し、のべ5万人・日を超える地方整備局などの職員により被災地支援を実施しています。

年度	災害	派遣人数(人)	
		事務所	中部地整
平成20年度	岩手宮城内陸地震	1	26
	岩手沿岸北部地震	1	11
平成21年度	駿河湾沖地震	3	22
平成22年度	東日本大震災	6	291
平成23年度	H23 台風12号 (熊野市)	8	134
平成25年度	H25 台風26号 (伊豆大島)	2	42
	H26 台風8号 (南木曾町)	3	52
平成26年度	御嶽の山噴火	16	78
	熊本地震	5	121
平成28年度	H28 台風10号 (岩手県)	1	66
	延べ	46	843

リエゾン

被災自治体の被害状況や支援ニーズを把握し、整備局への報告や状況に応じて技術的助言を行ってきました。

年度	災害	事務所 派遣人数(人)
平成22年度	東日本大震災	3
平成23年度	H23 台風15号	4
平成24年度	土岐市工場火災	2
平成25年度	H25 台風18号	2
平成26年度	H26 台風8号 (南木曾町)	10
	御嶽山の噴火	7
延べ		28



■(一社) 東濃・木曾防災対策協議会との協定締結
「災害又は事故における多治見砂防国道事務所管内の緊急的な応急対策の支援に関する協定」
東濃と木曾地域の建設業者18社で構成している(一社) 東濃・木曾防災対策協議会と平成23年4月22日協定を締結し、平成27年3月4日に改定しました。

梨子沢土石流

平成26年7月9日 長野県南木曾町で発生した土石流災害

平成26年7月9日に、長野県木曾郡南木曾町において土石流災害が発生しました。災害発生直後より、二次災害防止等のため、溪流状況調査、監視カメラ設置、砂防堰堤等に堆積した土砂の撤去等を実施しました。



災害直後の上空からの様子



梨子沢第2砂防堰堤(空っぽの状態)



災害後の土砂等の捕捉状況



堆積した土砂等の撤去(除石)状況

御嶽山噴火災害

平成26年9月27日 御嶽山で発生した火山噴火災害

平成26年9月27日に、岐阜県と長野県をまたぐ御嶽山において火山噴火災害が発生しました。災害発生直後より、土砂災害防止法に基づく緊急調査に着手し、二次災害防止等の対策として監視カメラ、ワイヤーセンサー、ブロック積み砂防堰堤の設置等を行いました。



災害直後の上空からの様子



ブロック積み砂防堰堤設置の状況



監視カメラ設置状況



ワイヤーセンサー設置の状況



緊急調査の実施(降灰状況調査の状況)



シミュレーションの実施状況



降灰の影響を考慮した土石流氾濫シミュレーション結果

連携事業年表



主な事業

開放講座「水と街道」



住民に事業の必要性を理解していただき、地域づくりに参加するきっかけをつくる目的で平成11年度から開催しています。これまでに1,700名を超える方々が受講し受講生のOB団体が様々な地域づくり活動に取り組まれています。

- テーマ**
地域づくりへの参加を目指して
～郷土を見つめ直し地域づくりに積極的に参加しましょう!～
- 開放講座の目的**
- ①地域住民とのコミュニケーションの促進
 - ②砂防事業・道路事業の重要性について理解と協力を得ること
 - ③受講生が自ら地域作り活動へ積極的に参加するきっかけづくり

開放講座「水と街道」OB活動団体一覧

活動団体名	「水と街道」東濃会	「水と街道」え～な～会	「水と街道」東濃西部会		小里川ダム里山教室	「水と街道」虎溪山の里山づくり
			多治見分会	可茂分会		
設立年次	平成14年6月	平成16年11月	平成16年7月	平成20年4月	平成18年6月	平成19年3月
主な活動場所	四ツ目川遊砂工	—	生田川遊砂工公園及びその周辺	可児川左岸	小里川ダム湖畔	虎溪山明治古道付近保寿院周辺
活動内容	四ツ目川防災教育を通しての地域づくり	地域の防災リーダーを目指す活動	生田川の再生を目的とした環境整備活動	可児川左岸遊歩道整備植生の復活	小里川ダム湖畔の里山整備及び地域づくり	虎溪山遊歩道・明治古道の整備保寿院の竹林整備

砂防教室・あおぞら教室

6月の「土砂災害防止月間」活動の一環として小学生を対象とした砂防に関する教室を開催しています。これまでに延べ17,600名を超える児童が参加しています。



キャンプ砂防

大学生を対象に砂防事業と地域の歴史・文化等について体験学習します。平成10年より開催しています。



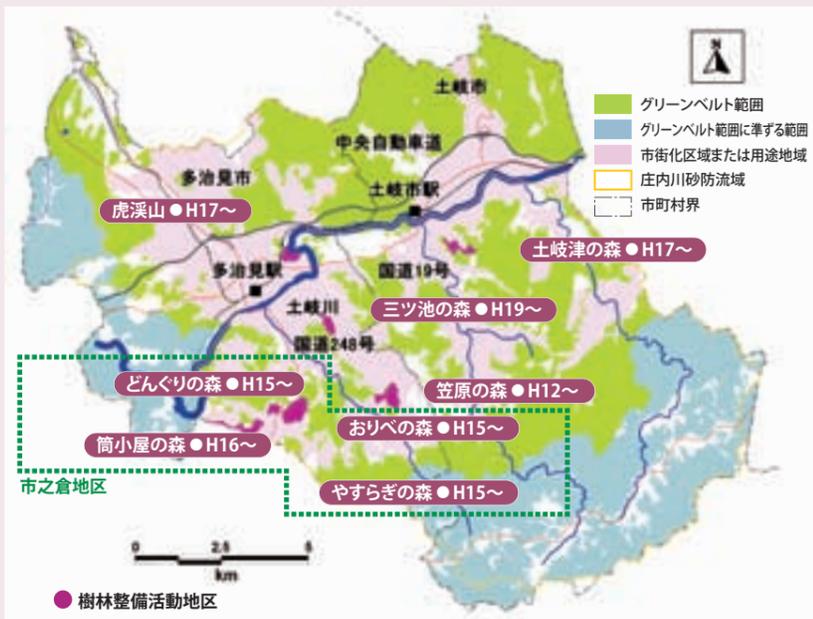
地域と協働した取組

土岐川流域グリーンベルト・里山砂防

多治見市、土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、土砂災害に対する安全性を高め、緑豊かな都市環境と景観を創出することを目的として行政と地域が連携して取り組んでいます。

基本理念・基本方針

- 〈基本理念〉
行政や地域の連携・協力のもと、はげ山から再生した丘陵を、より安全で豊かな都市山麓につくりあげていく。
- 〈基本方針〉
- 山麓斜面を防災的に強い樹林地とし、土砂災害を防止する。
 - 土砂災害のおそれのある地域に対し、適正な土地利用に誘導する。
 - 防災機能が高く、種の多様性に富む樹林地を保全・創出する。
 - 生活に憩いをもたらす自然景観を保全する。
 - 身近な自然体験（環境学習や森林レクレーション）の場を提供する。



場所・名称	多治見市					土岐市		
	笠原の森	市之倉森づくり部会				虎溪山の森	三ツ池の森	土岐津の森
		おりべの森	どんぐりの森	やすらぎの森	筒小屋の森			
活動開始年	H12	H15	H15	H15	H16	H17	H19	H17
活動主体	笠原中学校 地域住民有志	おりべの森部会 ・地域住民	どんぐりの森部会 ・市之倉保育園 保護者会 ・長寿会 ・市之倉振興会 ・地域住民有志	やすらぎの森部会 ・市之倉小学校 PTA ・地域住民有志	筒小屋の森部会 ・地域住民有志	多治見校再生 協議会 (地域NPO)	多治見中学校 三ツ池の森整備の会 ・多治見中学校 PTA ・地域住民有志	土岐津中学校 ・地域住民有志



妻木砂防遺産のある町さんぽ構想

地域住民・小中学生・観光客等が、砂防遺産や妻木町の歴史文化を巡る『さんぽ』を通して、地域社会における砂防との関わりを気軽に楽しく体験・学習できるよう、「妻木砂防遺産のある町さんぽ構想」を策定しました。



現場見学会「妻木の歴史文化と砂防を気軽に楽しく学習しよう」の様子（H29.5）



河川愛護活動

地域や企業の皆さんに砂防施設の美化清掃・愛護活動に参加して頂いています。



平成29年度河川愛護団体表彰式



環境ワーキング in 四ツ目川遊砂工



環境ワーキング in 子野川床固



環境ワーキング in 山神砂防堰堤

登録有形文化財（歴史的砂防施設）

砂防事業や砂防技術の歴史上、特に貴重と考えられる砂防施設について、それらの施工背景や用いられた技術上の特徴などについて調査してきました。その結果、3つの砂防堰堤が歴史的貴重性及び重要性を有するとの評価を受け、平成18年10月、国の『登録有形文化財』に登録されました。

流域名	堰堤名	登録基準		
		国土の歴史的景観に寄与しているもの	造形の規範となっているもの	再現するのが容易ではないもの
土岐川	浦山第二砂防堰堤	—	—	◎
木曾川	山神砂防堰堤	◎	—	—
	二ヶ滝第一砂防堰堤	—	—	◎

中津川市 二ヶ滝第1砂防堰堤（木曾川水系中津川支川正ヶ根谷）



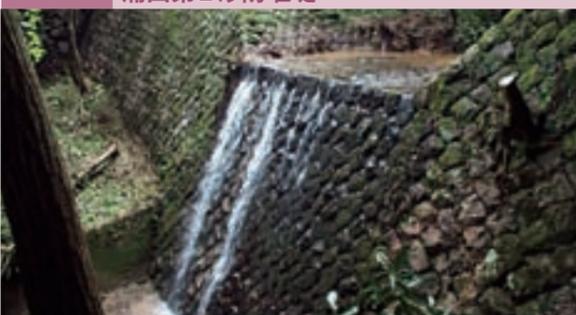
昭和23年度完成 堤高：5m 堤長：26m 形式：空石積堰堤
登録基準：再現することが容易ではないもの

中津川市 山神砂防堰堤（木曾川水系中津川支川四ツ目川）



昭和14年度完成 堤高：8m 堤長：42m 形式：練石積堰堤
登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの

土岐市 浦山第2砂防堰堤（庄内川水系妻木川支川浦山谷川）



昭和18年度完成 堤高：5m 堤長：28m 形式：空石積堰堤
登録基準：再現することが容易ではないもの

道の駅

ROUTE 21 国道 可児ッテ (可児市・平成22年9月開駅)

地元の野菜や果物、特産品が買えて、食事もできます。野菜、果物は、地元産以外にも南信州のりんごなど、全国の「美味しい」を集めています。商品やイベントなど「いいもの・いいひと・いいこと」がてんこ盛り!何回来てても楽しめる道の駅です!

国における最近10年間での事業
平成22年9月に可児ッテが開駅しました。
防災拠点
可児市により、平成25年度に南海トラフ巨大地震など超広域災害の発生に備え、広域物流拠点・応援活動拠点として位置づけられました。



嶺南 駅長

ROUTE 21 国道 し・おりべ 志野・織部 (土岐市・平成16年4月開駅)

国における最近10年間での事業
平成28年度に使いやすいトイレ(トイレの洋式化等)に改修しました。



土岐市の地場産業である美濃焼が豊富に揃う道の駅です。みなさんの日常生活にほんの少しの彩りを添える器を見つけに来てください。



田中 駅長

ROUTE 19 国道 しずも 賤母 (中津川市・平成7年8月開駅)

国における最近10年間での事業
・平成26年度に重点「道の駅」候補に選定しました。
・平成28年度に使いやすいトイレに改修しました。

地元生産物の販売、昔からの食の文化を商品化しながら販売しています。
近くにお越しの際は是非お寄りください。



岸 駅長

「道の駅」は、安全で快適に道路を利用するための道路環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設で、「地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場」を基本コンセプトにしています。
また、「道の駅」は3つの機能を備えており、24時間無料で利用できる駐車場、トイレなどの「休憩機能」、道路情報、観光情報、緊急医療情報などの「情報提供機能」、文化・教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設で地域と交流を図る「地域連携機能」があります。

平成27年度には、国・岐阜県・道の駅が協力し「東濃道の駅めぐり」というスマートフォン向けアプリをリリースしました。
このアプリでは、道の駅から発信する情報及び道の駅周辺の情報を紹介しています。



道路ふれあい月間活動

8月の「道路ふれあい月間」にて広報活動を行っています。道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を特に推進することにより、道路を利用する国民の方々に、道路とふれあい、道路の役割や重要性を改めて認識して頂き、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただく事を目的としています。



多治見砂防国道事務所職員作成のオリジナルポスター



(一社)東濃・木曽防災対策協議会と道路清掃協働作業



ボランティア・サポート・プログラム意見交換会

道路愛護活動

道路清掃、除草、樹木剪定、花壇の花植え等、道路の環境美化に向けて、地域住民の方々や企業の皆さんがボランティアで作業してくださっています。ボランティア団体の皆さんは、V.S.P.(ボランティア・サポート・プログラム)の登録団体と、登録しないで活動されている団体があり、いずれも、道路に対して美しく、安全に利用できるよう心を配って活動されている皆さんです。

※「ボランティア・サポート・プログラム」とは、道路管理者である多治見砂防国道事務所と、市町、ボランティア団体で協定を結び道路清掃等活動をしていただく環境美化プログラムです。

平成28年度道路愛護・道路功労者表彰の皆さん



道路愛護国土交通大臣表彰 会所ヶ丘区シルバー会



道路愛護多治見砂防国道事務所長表彰 瑞浪高等学校柔道部



道路功労者表彰 恵那たんぼぼ作業所

ボランティア・サポート・プログラム登録団体

- (株)市川工務店 東濃支店(国道19号多治見市内の植樹剪定、除草)
- (株)吉川工務店(国道19号中津川市三五沢ランプ植栽帯の整備)
- (株)藤本組(国道19号多治見市内ゴミ拾い及び弁天町の花壇苗植え)
- 会所ヶ丘区シルバー会(国道19号中津川市内の植栽帯草刈り)
- 市原長寿クラブ(国道19号瑞浪市土岐町のゴミ拾い)
- 中津川市子野区・子野喜楽会(国道19号中津川市内の花壇苗植え)
- 協同組合土岐美濃焼卸センター
- (独)岐阜職業能力開発促進センター
- (国研)日本原子力研究開発機構東濃地科学センター(国道21号土岐市次月交差点の花壇苗植え)



道路愛護活動をされている団体

- 多治見を美しくする市民の会(国道19号多治見市内の清掃)
- 多治見北高等学校(国道19号多治見市内の清掃)
- 曾根会計事務所(国道19号土岐市内の清掃)
- 瑞浪高等学校柔道部(国道19号瑞浪市内の清掃)
- 山口正巳氏(国道19号瑞浪市内の除草)
- 恵那たんぼぼ作業所(国道19号恵那市内の清掃)
- (株)エナ重機(国道19号恵那市内の清掃)
- 東濃信用金庫(各支店近隣の国道を含めた地域の清掃)
- (一社)東濃・木曽防災対策協議会(国道19号の除草、清掃)



昭和12年5月	内務省名古屋土木出張所「土岐川砂防工場」が多治見町に、「中津川砂防工場」が中津町にそれぞれ開設され、土岐川流域および中津川流域の砂防工事が直営工事により着手される。
昭和21年4月	「土岐川砂防工場」が「多治見砂防工事事務所」となり「中津川砂防工場」が管下に入る。
昭和23年5月	事務所を多治見市昭和町に移動する。
〃 9月	「多治見砂防工事事務所」が、建設省中部地方建設局「多治見工事事務所」と改称される。
昭和24年1月	事務所の庁舎新築工事が完成する。(木造平屋建瓦ぶき)
昭和25年4月	「中津川砂防工場」が「中津川出張所」と改称される。
昭和26年1月	事務所に課制が設けられ「庶務課」と「工務課」を設置、あわせて「妻木出張所」が設置される。
昭和31年5月	「瑞浪出張所」が設置され、国道19号の改築工事が直営工事により着手される。
昭和33年3月	事務所が多治見市坂上町に移転する。
〃 4月	「土岐出張所」「落合出張所」が設置され、事務所管内の国道19号の本格的改築が始められる。
	国道21号の改築工事が直営工事により着手される。
昭和37年1月	「瑞浪出張所」が「武並出張所」と改称される。
〃 4月	「用地課」が設置される。事務所に「多治見高速道路調査事務所」が併設される。
昭和38年4月	「用地課」が廃止される。
	「武並出張所」が廃止され、「瑞浪国道維持出張所」が設置される。
昭和39年4月	「砂防課」が設置される。
昭和41年11月	「多治見高速道路調査事務所」が廃止される。
昭和42年6月	「落合出張所」が廃止され、「用地課」が設置される。
昭和46年4月	「土岐出張所」が廃止され、「恵那出張所」が設置される。
昭和47年5月	「副所長(技術)」が設置される。
	事務所の庁舎新築工事が完成する。
昭和48年4月	「恵那出張所」が廃止され、「土岐出張所」が設置される。
昭和49年4月	「調査課」が設置される。
昭和51年5月	「副所長(事務)」が設置される。
昭和52年4月	「砂防課」が廃止され、「工務第一課」と「砂防調査課」が設置される。
	「工務課」が「工務第二課」に、「調査課」が「調査設計課」にそれぞれ改称される。
昭和53年4月	木曾南部の砂防事業が直轄として着手される。
昭和56年4月	「庶務課」が分れ、「庶務課」と新たに「経理課」が設置される。
	「上松出張所」が新設される。
昭和57年3月	「妻木出張所」が土岐市妻木町万場(現在地)に移転する。
〃 4月	「工務第二課」が分れ、「工務第二課」と新たに「道路管理課」が設置される。
昭和58年4月	「土岐出張所」が土岐市泉大島町に移転する。
昭和59年10月	「上松出張所」が木曾郡上松町栄町に移転する。
昭和60年4月	「庶務課」が「総務課」に改称される。
平成4年4月	「中津川出張所」が中津川市かやの木に新築される。
平成8年5月	「用地課」が廃止され、「用地第一課」と「用地第二課」が設置される。
平成9年4月	「副所長(技術)」が設置される。
平成13年1月	国土交通省中部地方整備局多治見工事事務所に改称される。
平成15年4年	国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所に改称される。
平成17年3月	長野県山口村が岐阜県中津川市と合併したことにより、L=8.996kmが飯田国道事務所から多治見砂防国道事務所の管理となる。
平成22年1月	事務所が多治見市小田町(現在地)に移転する。
平成25年3月	「土岐出張所」が廃止される。
平成29年4月	「調査設計課」が「計画課」に改称される。



中津川砂防工場(昭和14年)



土岐川砂防工場(昭和14年)



多治見工事事務所(昭和26年)



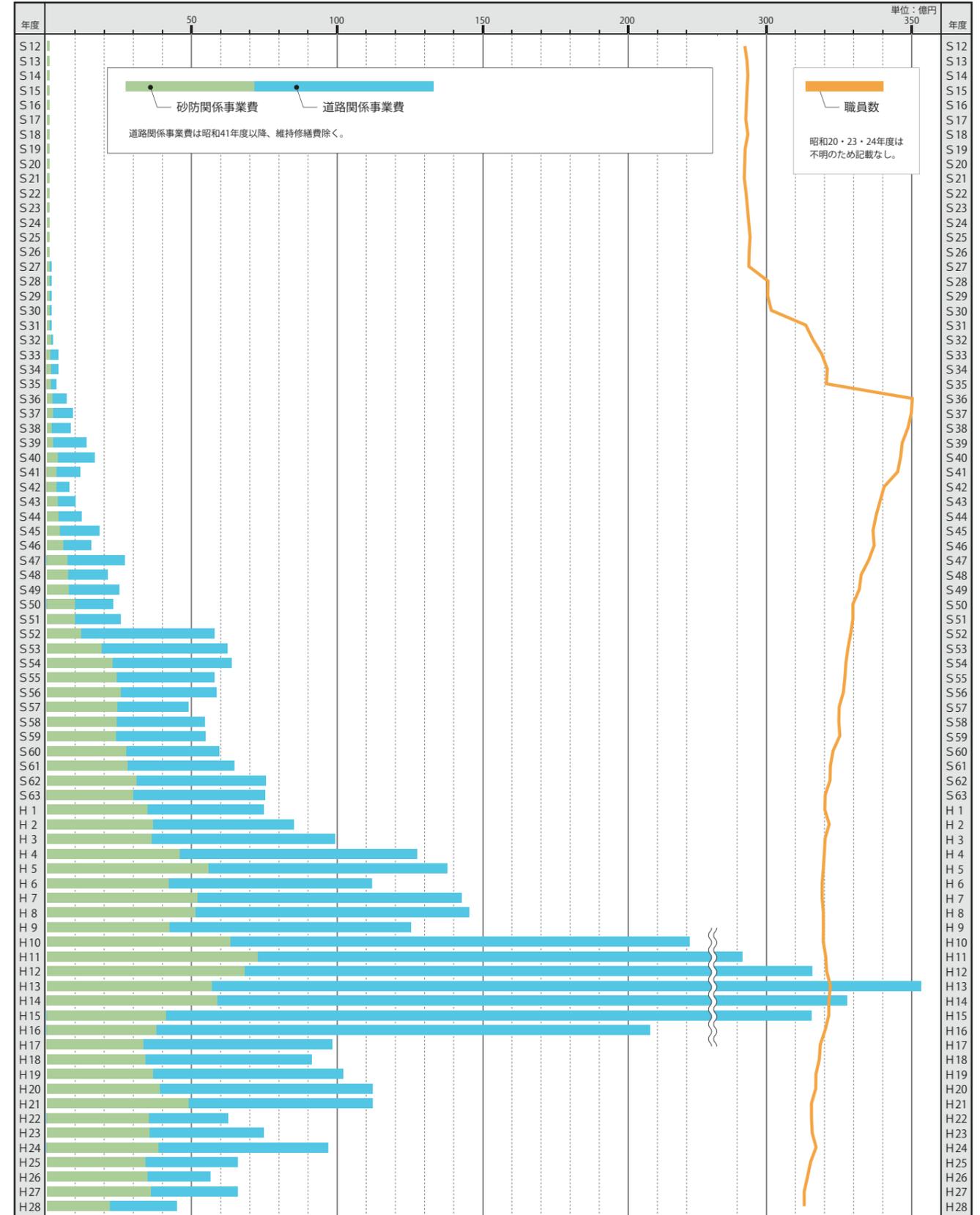
国道19号の改築工事に着手(昭和31年)



現在の庁舎(平成22年)

■事業費の推移

■職員数の推移



※多治見砂防国道事務所80周年記念誌編集委員会調べ

事務所・出張所一覧



国土交通省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6 TEL.0572-25-8020(代)



中津川出張所 管轄 木曾川砂防事業(岐阜県)

〒508-0045 中津川市かやの木町4-1 TEL.0573-66-1353



妻木出張所 管轄 庄内川砂防事業

〒509-5301 土岐市妻木町万場1135-2 TEL.0572-57-6213



瑞浪国道維持出張所 管轄 一般国道19号・21号維持管理・改築

〒509-6108 瑞浪市益見町2-99



上松出張所 管轄 木曾川砂防事業(長野県)

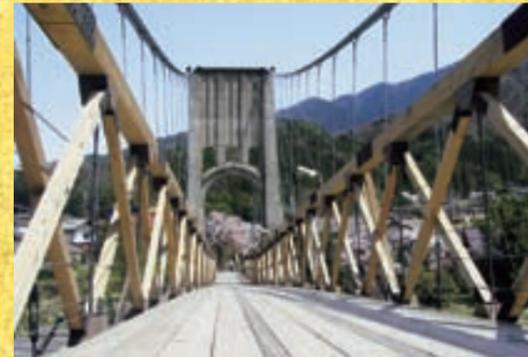
〒399-5605 木曾郡上松町栄町2-9 TEL.0264-52-4863



赤沢溪谷 (上松町)



阿寺溪谷 (大桑村)



桃介橋 (南木曾町)



馬籠宿 (中津川市)



恵那峡 (恵那市)

多治見砂防国道事務所 80周年記念誌編集委員会

委員長	網川 浩章	松山 直人	後藤 明										
副委員長	遠山 善紀	前田 慶子	風岡 清										
委員	伊藤 正人	猪原 壯	岩田 成人	山田 俊男	澤田 宗也	市川 東大	柴田 康晴	三輪 勝弘	安井江吏子	島崎 玲一	有澤 俊治	北村 篤泰	柴山加奈子



平成29年で80周年

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4丁目8-6
TEL0572-25-8020 / FAX0572-25-7994